

ノーマルミッション
常规任务

GOON

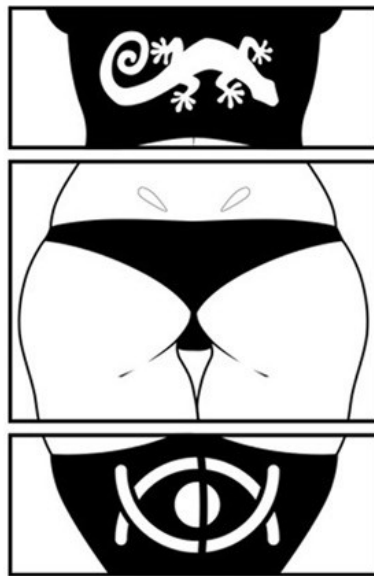
奴隶特工队

スレイブエージェント

03 性奴隶







蜥臀目

2022 03

まさかこんな辺鄙な所でアロサウジの將軍様に出くわすとはな。

こらあほ！
観戦しないで早くテロ組織の残党捕まえに行くだぞ。

將軍様と互角に戦ってるぞ、あの傭兵が！

公務で丁度近くに居てな。

騒動を聞きつけて来てみれば……

元レックスストゥス公国ロイヤルオペレーターとなったら見過ごせん

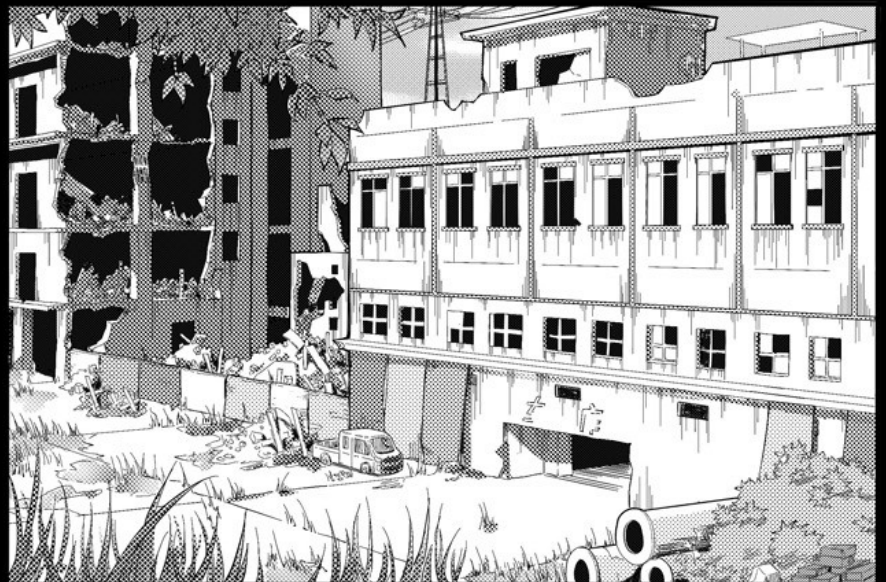
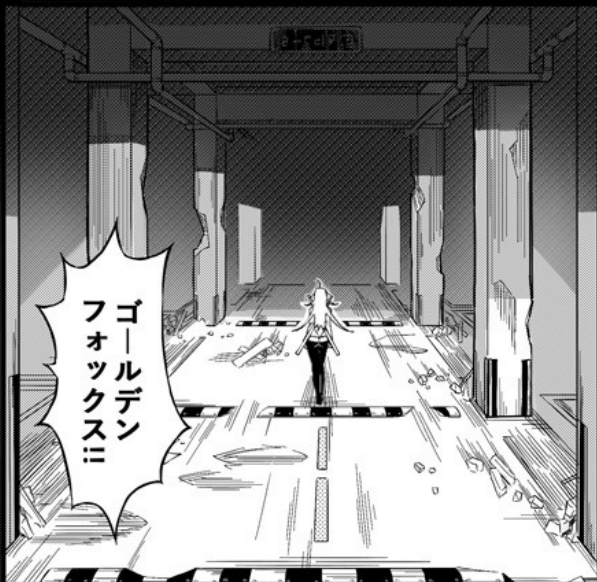
ふーん、ご苦労なこった。

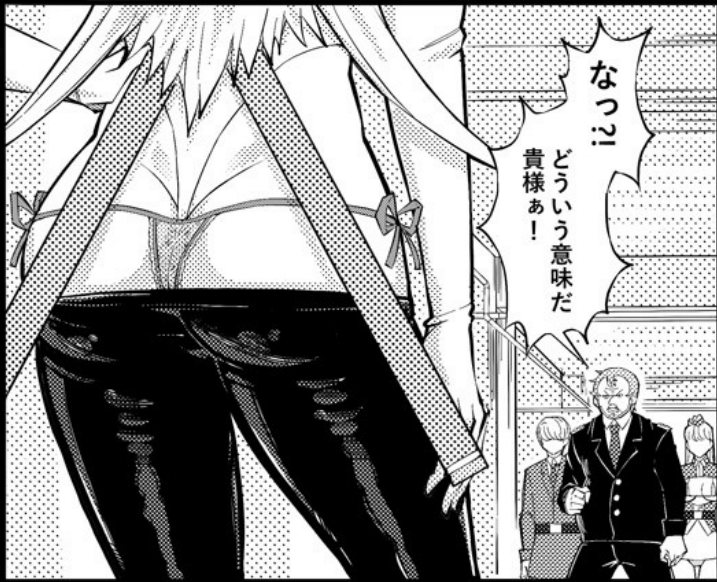
ああ、紛争中だがここは我が国の領土に変わりない。

テロ勢力や「外国の傭兵」の好き勝手にはさせんぞ？

そう興奮すんな。ここでのあたしの役目はもう無いから、大人しく去るさ。

じゃあな。



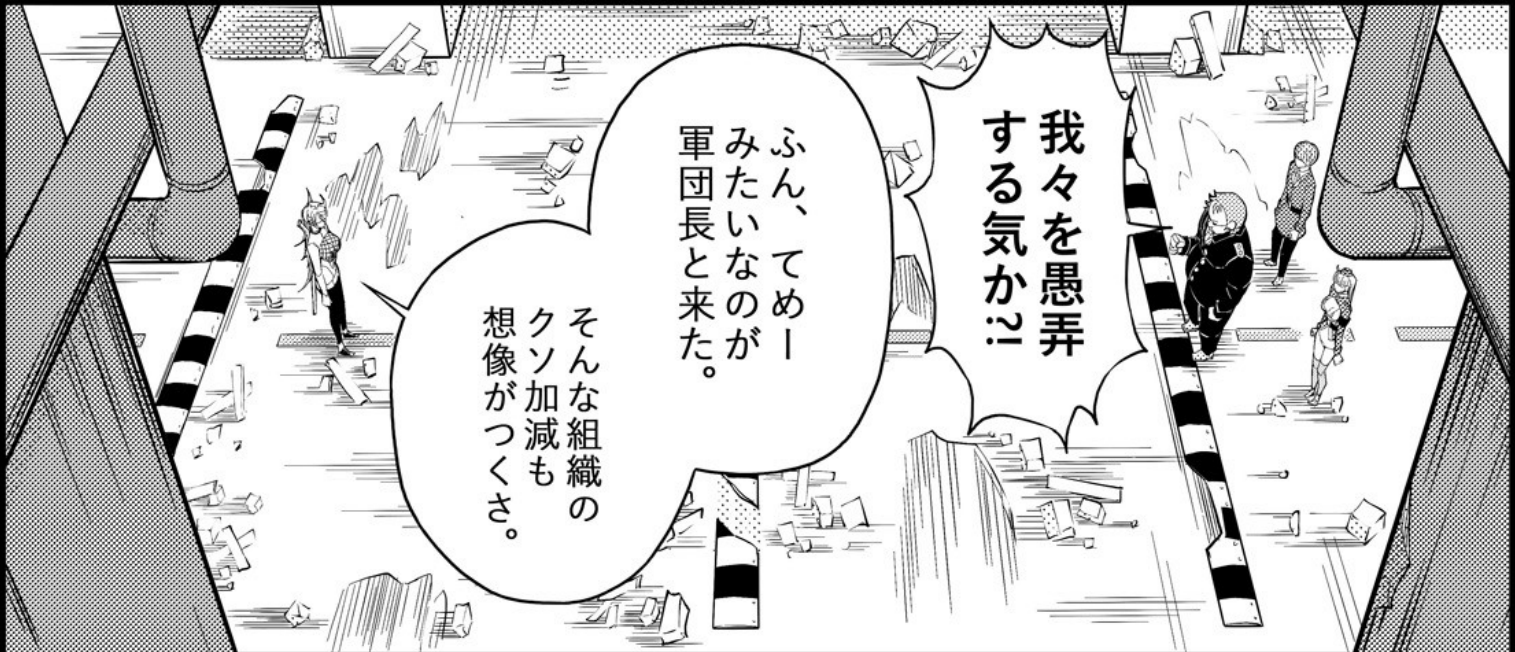


なっ!!
 どういう意味だ
 貴様あ!



どの勢力にも
 属しないって言
 ったはずだ。

ましてはお前
 らのような、
 な?



我々を愚弄
 する気か!!

ふん、てめー
 みたいなのが
 軍団長と来た。

そんな組織の
 クソ加減も
 想像がつくさ。

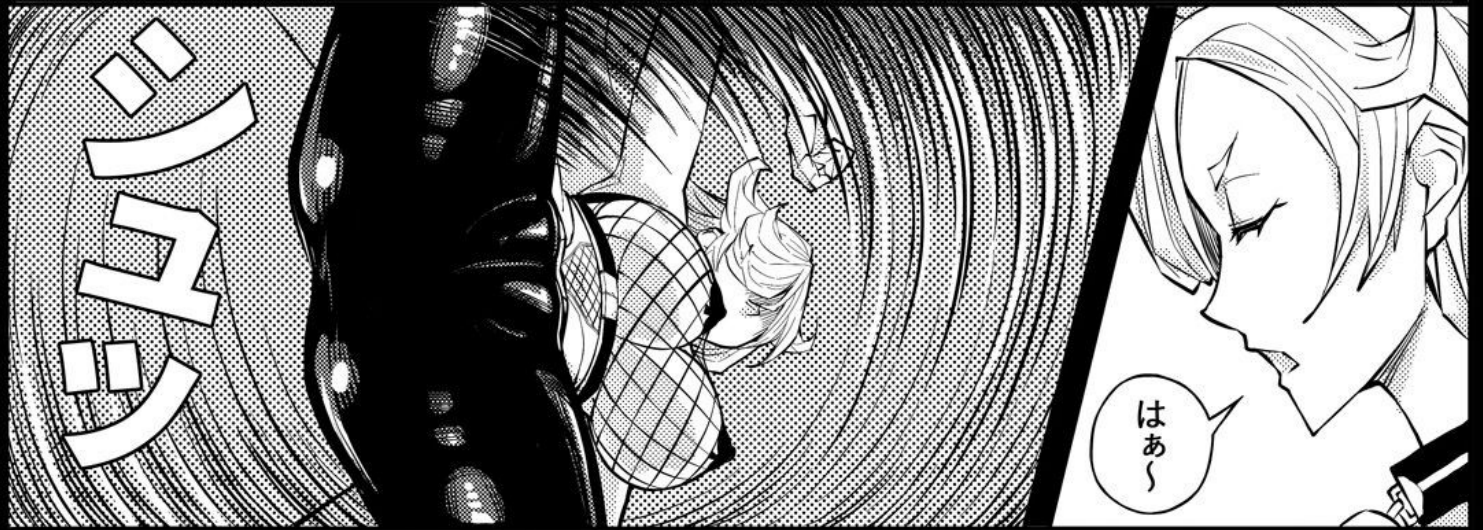
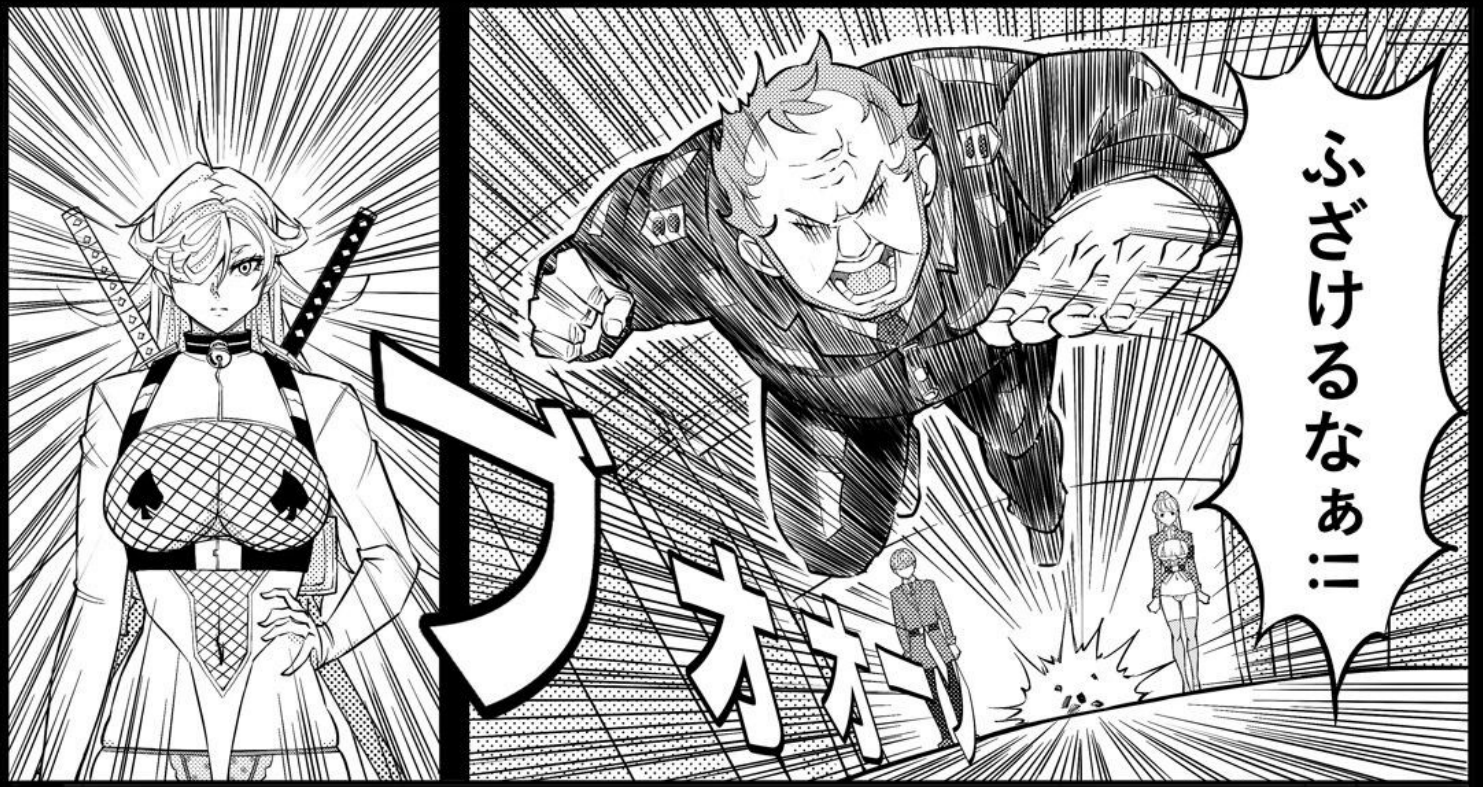


クソアマ…


傭兵の分際て高を括
 りやがって、何様の
 つもりだあ?




何だと









弱いのは問題
じゃない




それを自覚
出来ないのが
いけないんだ




人間と家畜だ、
あたしとお前
の差は



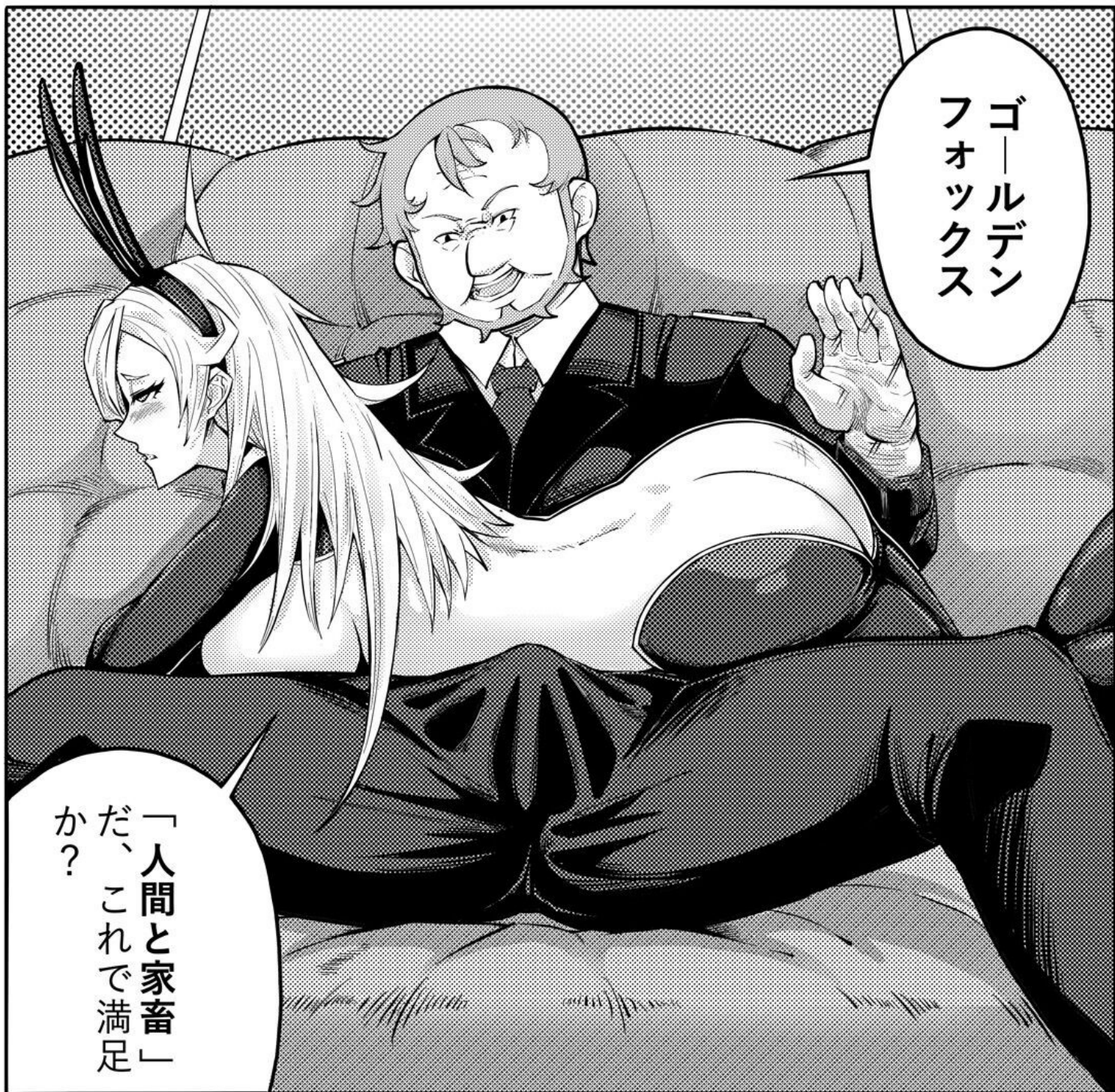
人間様の前で豚野郎が
どう弁えるべきか、
ちゃんと考えとくんだな



五年前だ



確かにそう
言ってくれ
たよな……



ゴールデン
フォックス

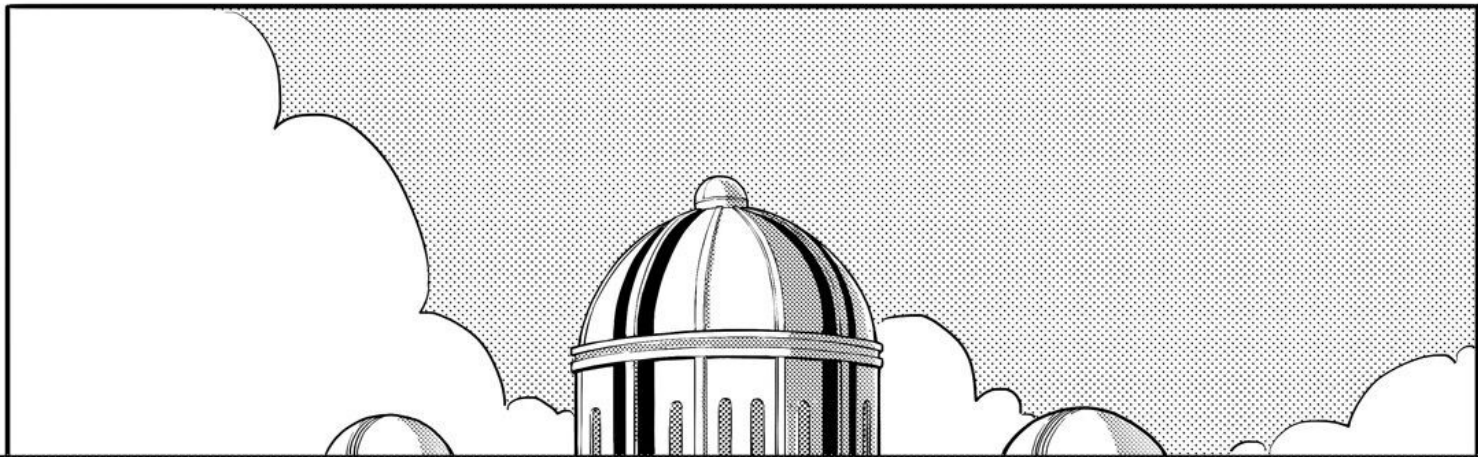
「人間と家畜」
だ、これで満足
か?



SKIN 03

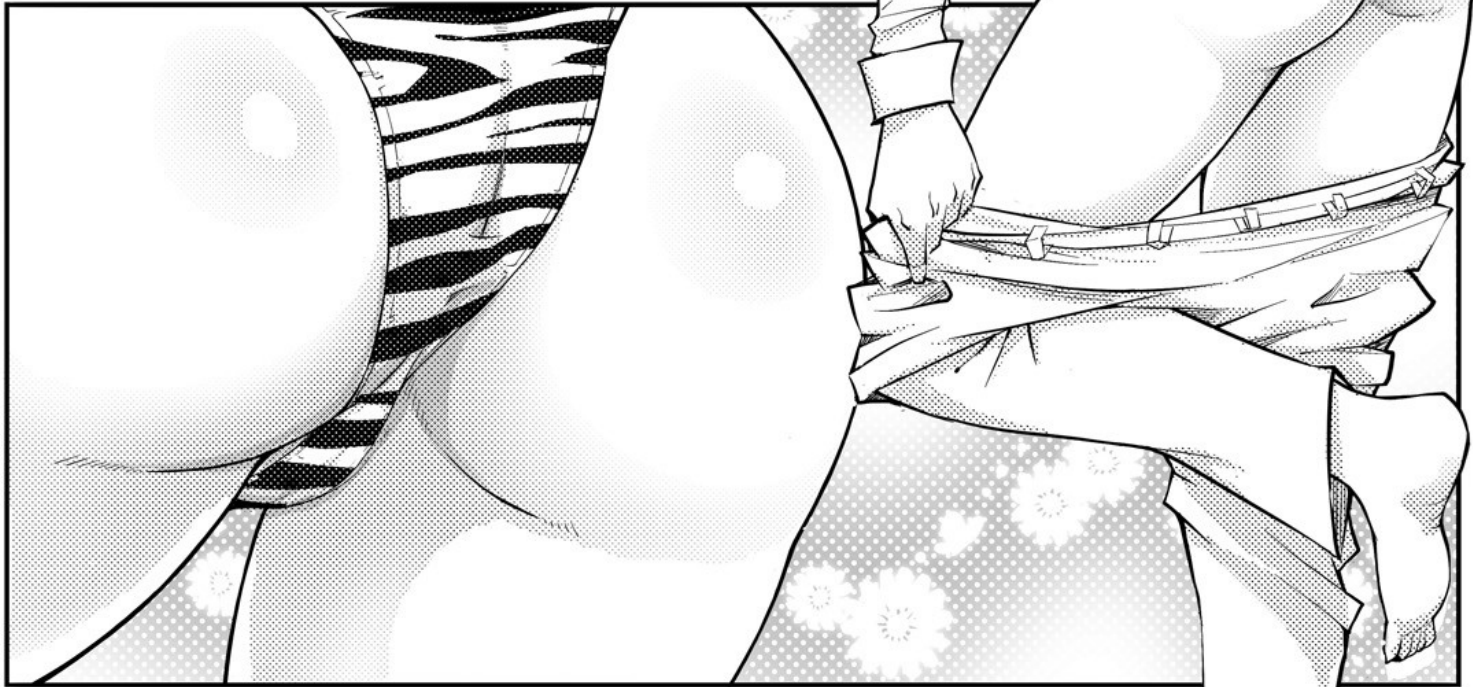
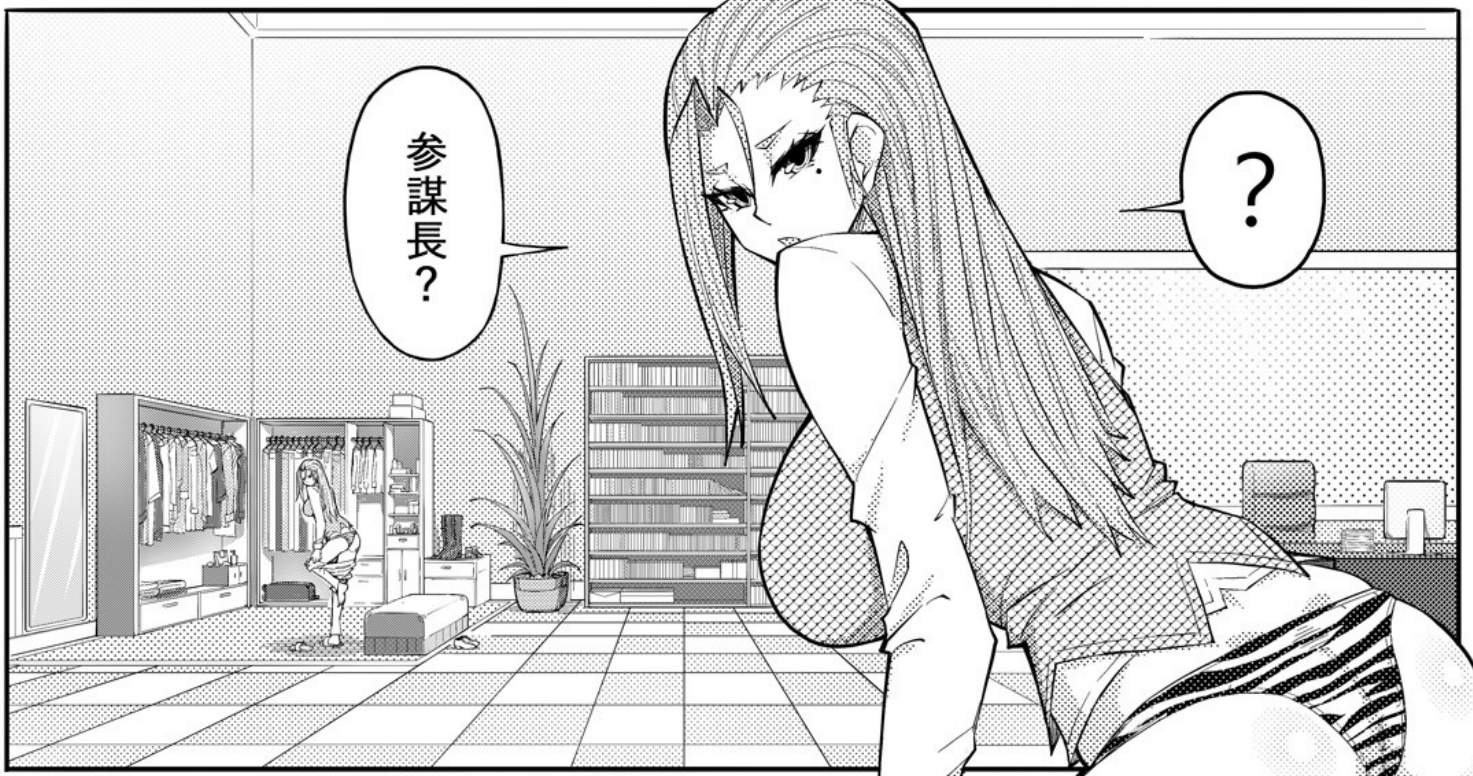


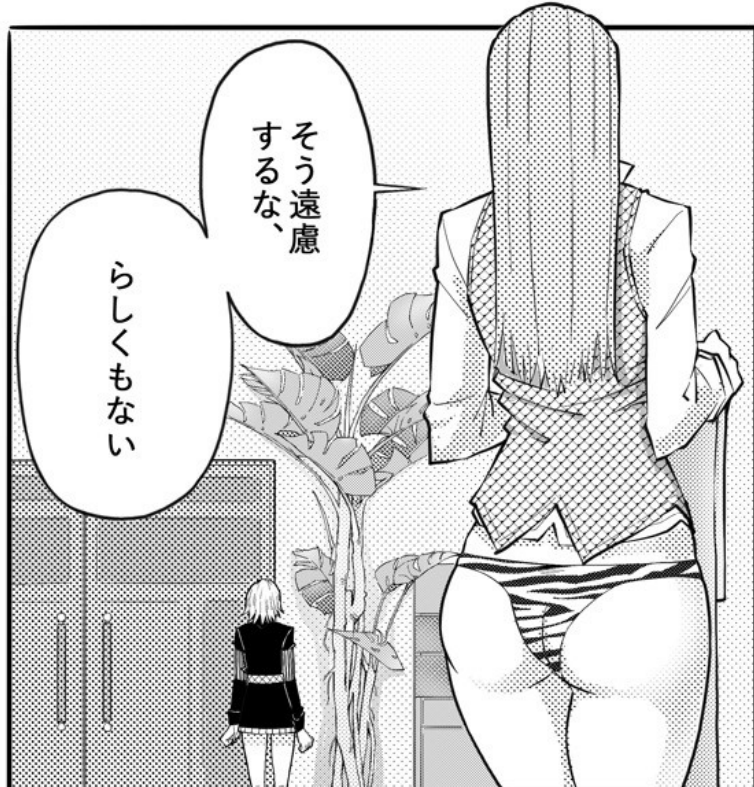
SEX SLAVES



21時間前 アロサウジア王国将軍府







そう遠慮
するな、

らしくもない



た、大変失礼
しました！

まさか更衣中とも
知らずに……また
出直します！



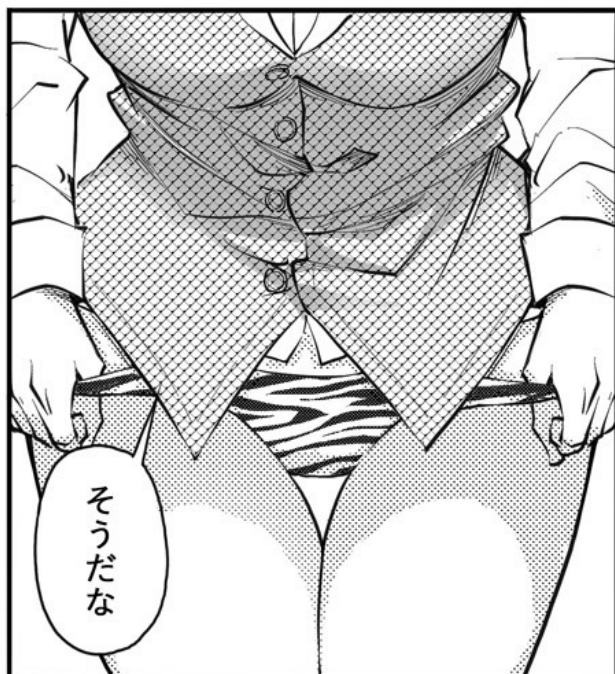
……



これが済んだら王家
のパーティーに参加
する予定だ

それだと連絡も
出来んからな

気にせず今の
内に話せ



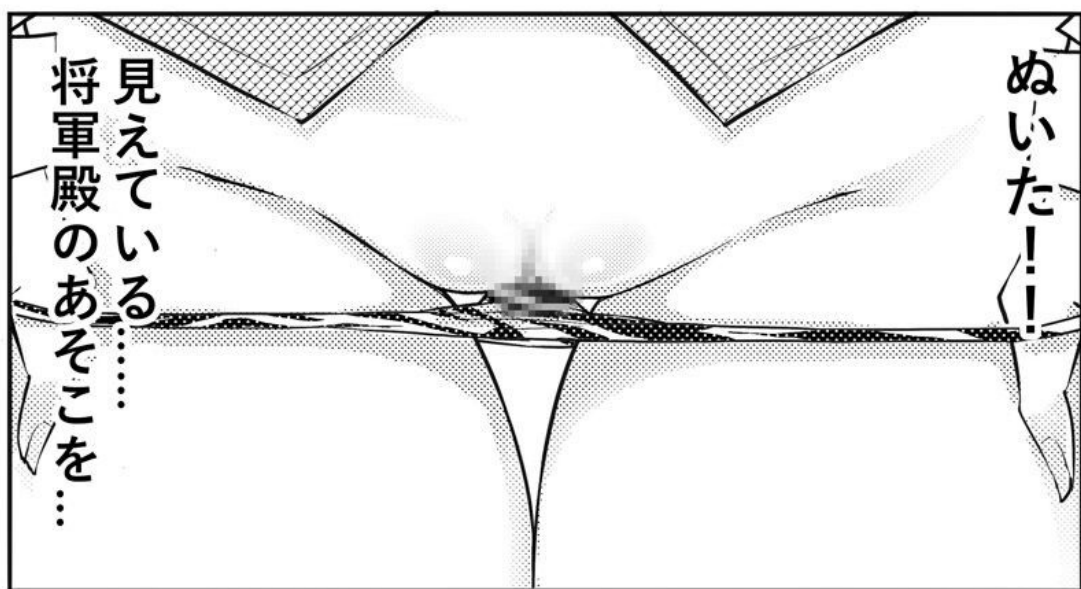
そうだな



では……

五年前、

將軍殿はあの
シックスと対峙
してました





それに限定した
十回試合でなら

恐らく四回ぐらい
は彼女に負けるだ
ろう



特にあの二刀流の
剣法は、白兵戦で
の無類の強さは
かなり手強い物だ



彼女の身体能力には
天賦の才がある、
その上各種戦闘にも
手馴れているようだ



では…



将軍殿なら、

「ブラックデザ
ート」の第五軍
団を単騎で突破
出来ますか？



ふむ。第五軍団の区画は主に後方支援や補給、そして戦略優先度の低い研究をしている施設で構成されている

兵力では比較的弱い区画ではあるな。

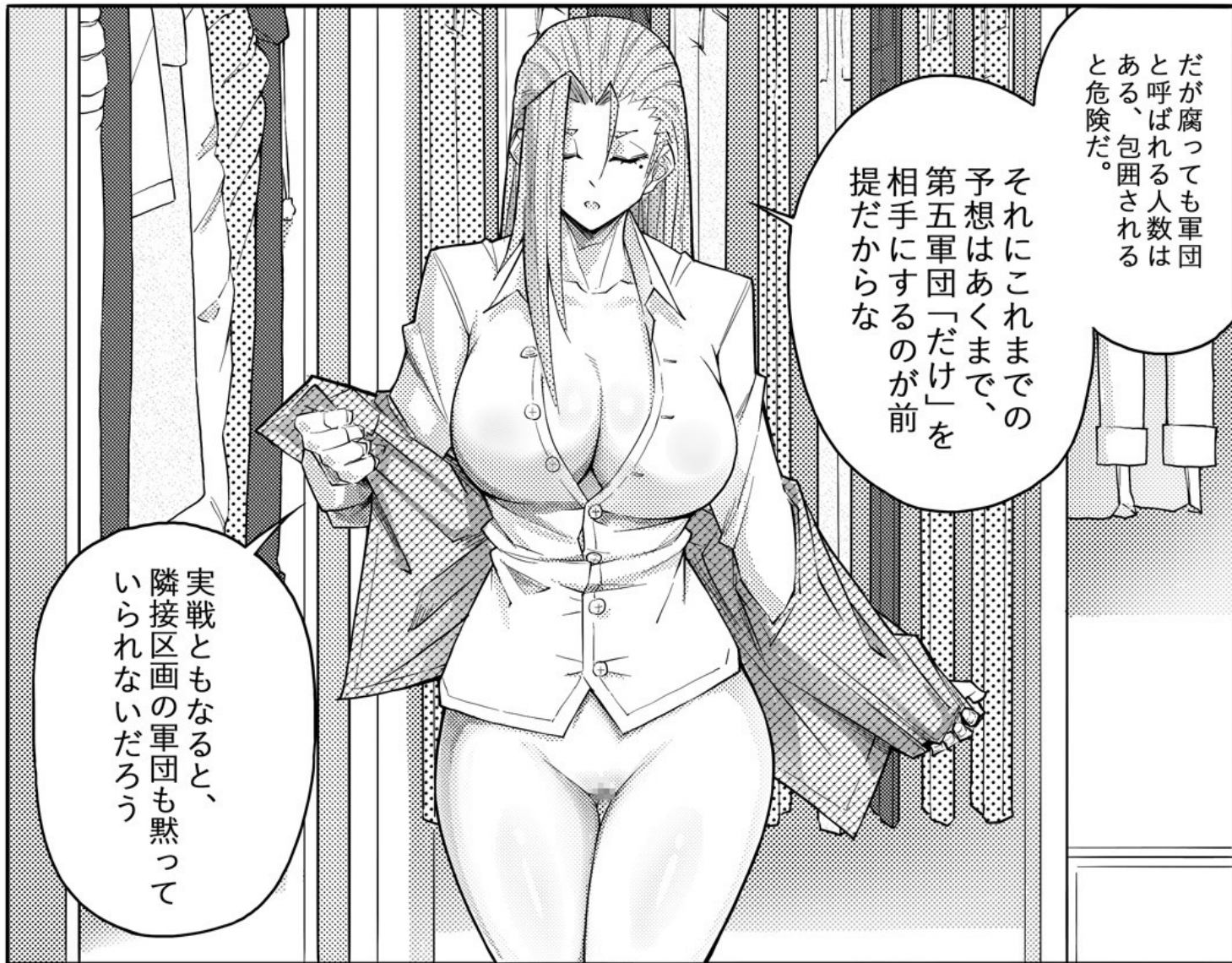


そのに配給されているスーパーソルジャーも武器も一線級とは行かない型落ちした物だ。



その指揮官や幹部も、優秀とは言えない者ばかり。

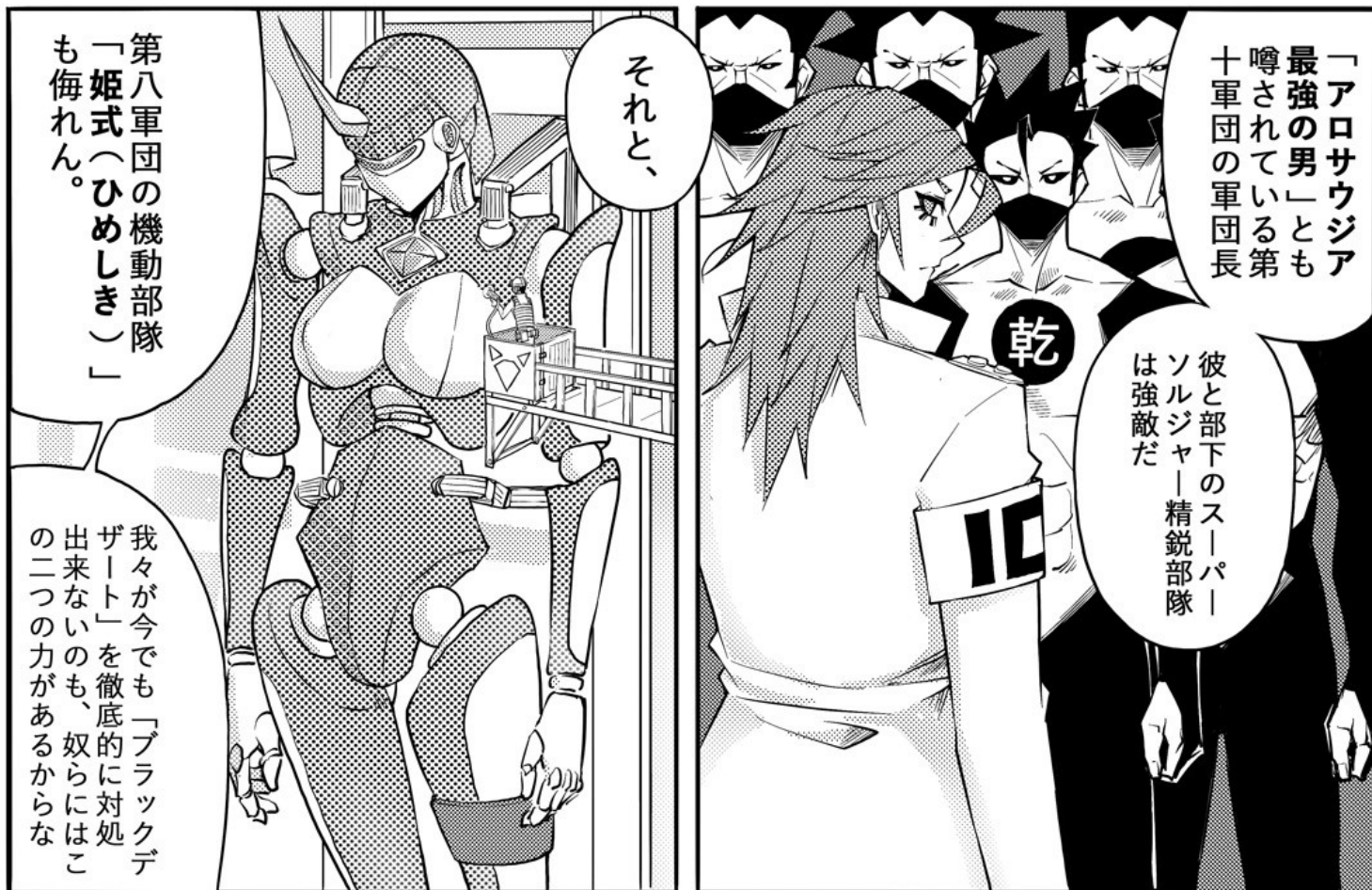
運が向いていれば、単騎での突破も出来よう。



だが腐っても軍団
と呼ばれる人数は
ある、包囲される
と危険だ。

それにこれまでの
予想はあくまで、
第五軍団「だけ」を
相手にするのが前
提だからな

実戦ともなると、
隣接区画の軍団も黙って
いられないだろう



「アロサウジア
最強の男」とも
噂されている第
十軍団の軍団長

彼と部下のスーパ
ーソルジャー精鋭部隊
は強敵だ

それと、

第八軍団の機動部隊
「姫式（ひめしき）」
も侮れん。

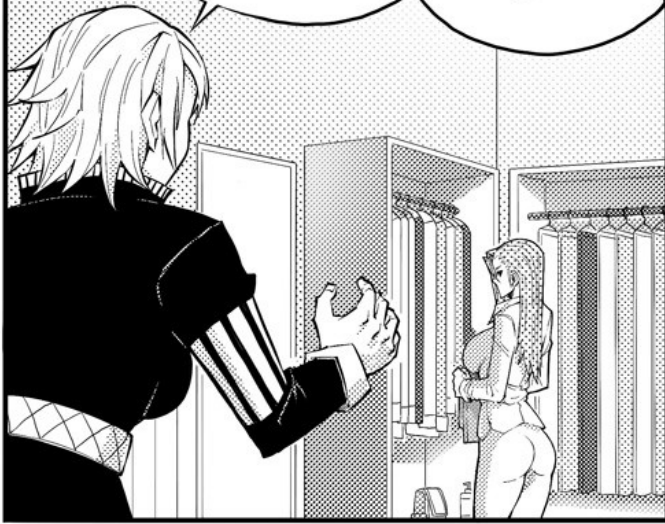
我々が今でも「ブラックデ
ザート」を徹底的に対処
出来ないのも、奴らにはこ
の二つの力があるからな

でしたら……！

ますます分かりませんよ！

なぜこれほどな
ミッションで、SKIN
にそんなに過度な期待
を持っているのです？

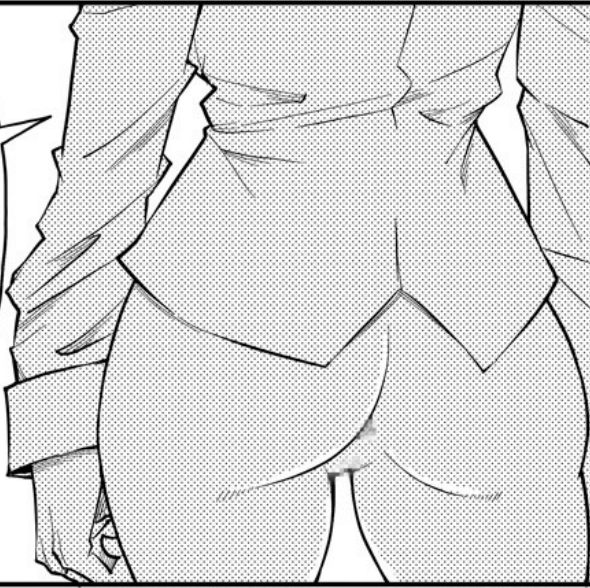
彼女たちが中央区
に潜入し、ファイル
を奪って無事脱出
できるとは到底思え
ません。



やはりそう思
っていたか。

参謀長の言う通り、
今の彼女らに中央区
への潜入は期待出来
ないが……

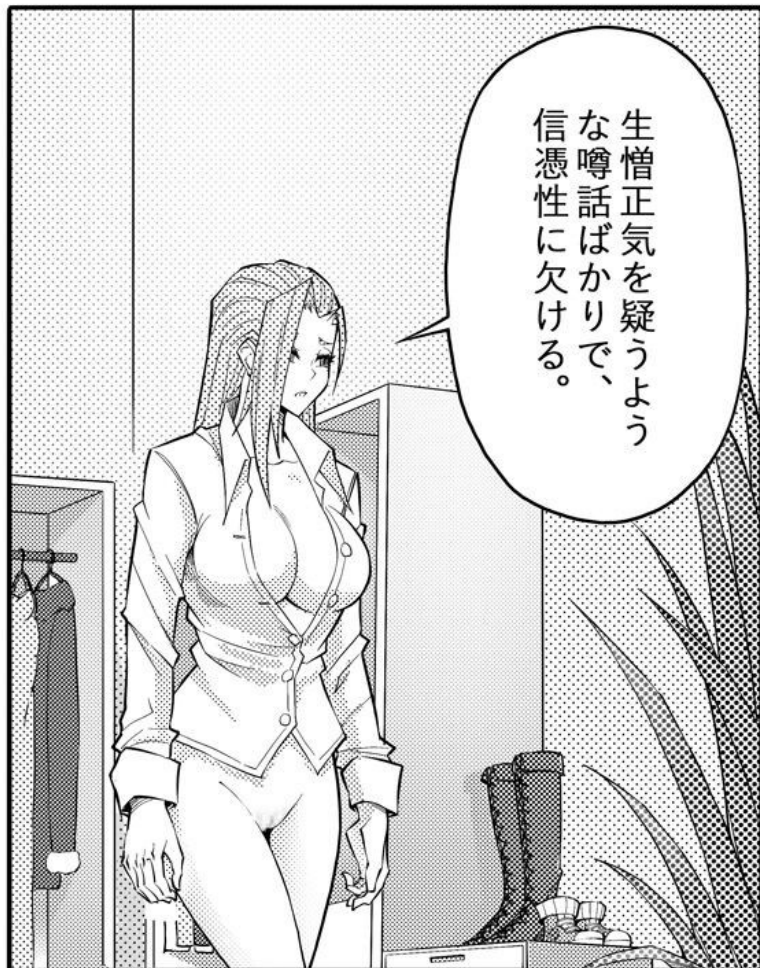
？



彼女らのミッション
はまだ失敗した訳で
はない。

ミッション期間が
満了してない上、
詳細な状況を掴め
た訳ではない。





生憎正気を疑うような噂話ばかりで、
信憑性に欠ける。



ここ数年、SKINの
資料を色々集めて
いたが



だから君達には
完全な情報を伝え
られずにいた。

参謀長が疑問を抱く
のも当然だ、謝罪し
よう。

だが、ここにある残
りの資料を見れば、
私の判断にもそれな
り同意出来るよう
なる筈だ。



その姿勢……



ちよっ、將軍殿……

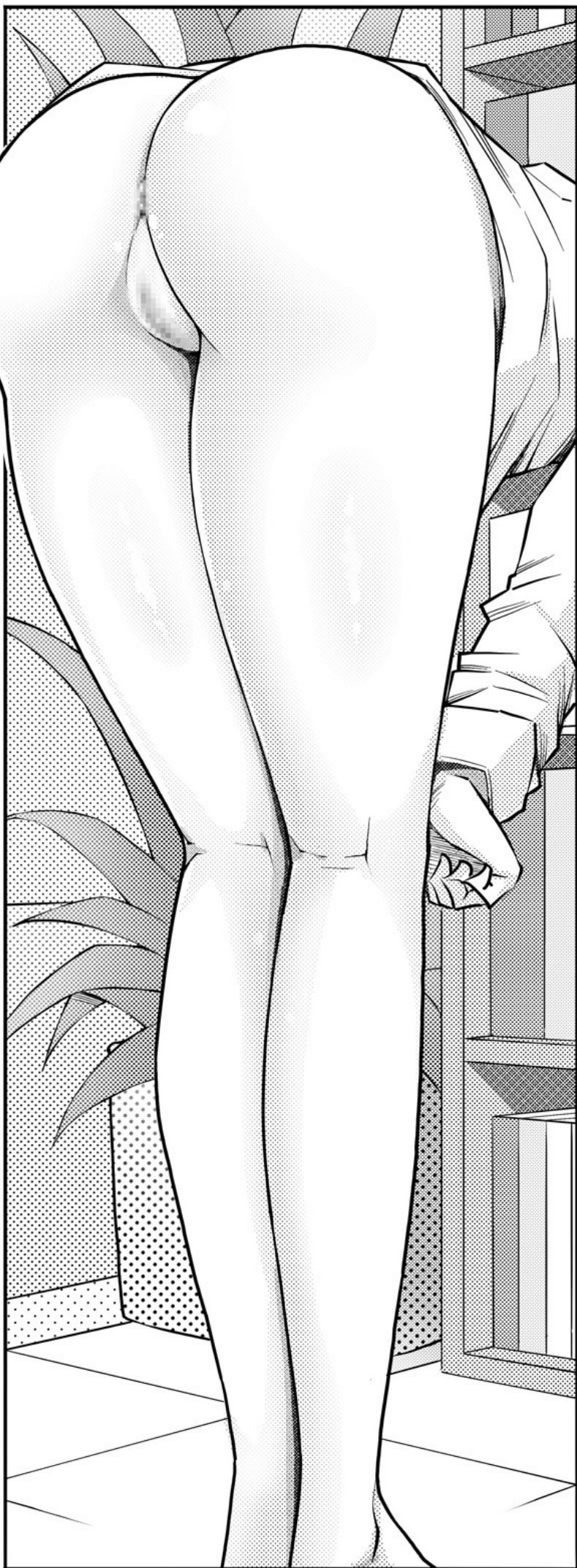
ふむ、
少し待て……

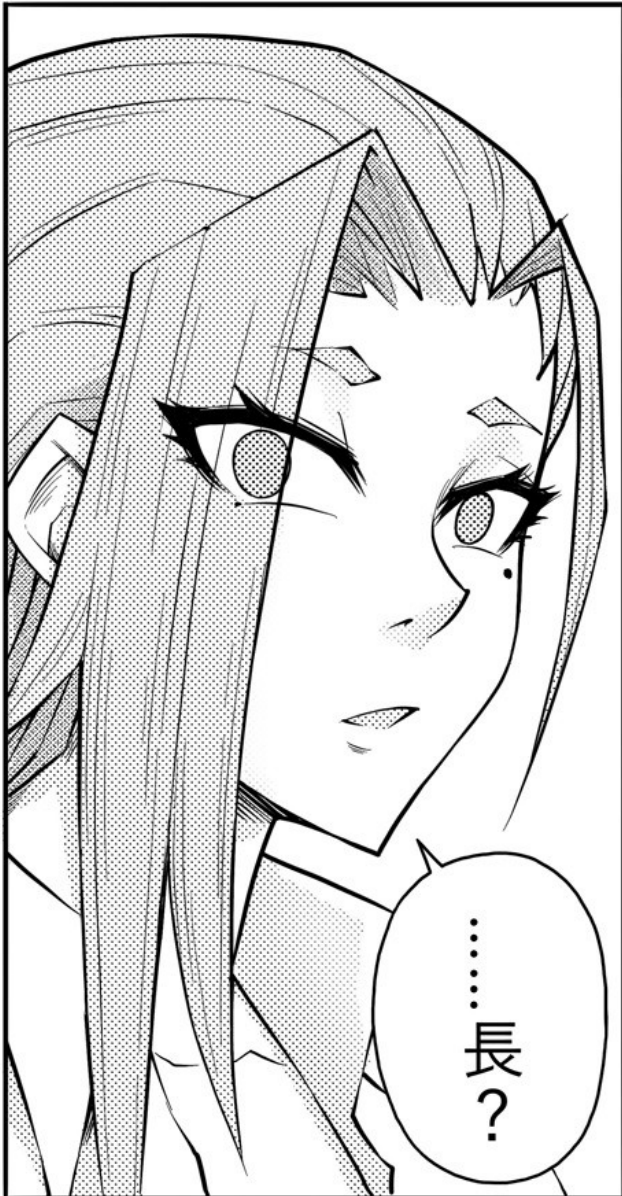
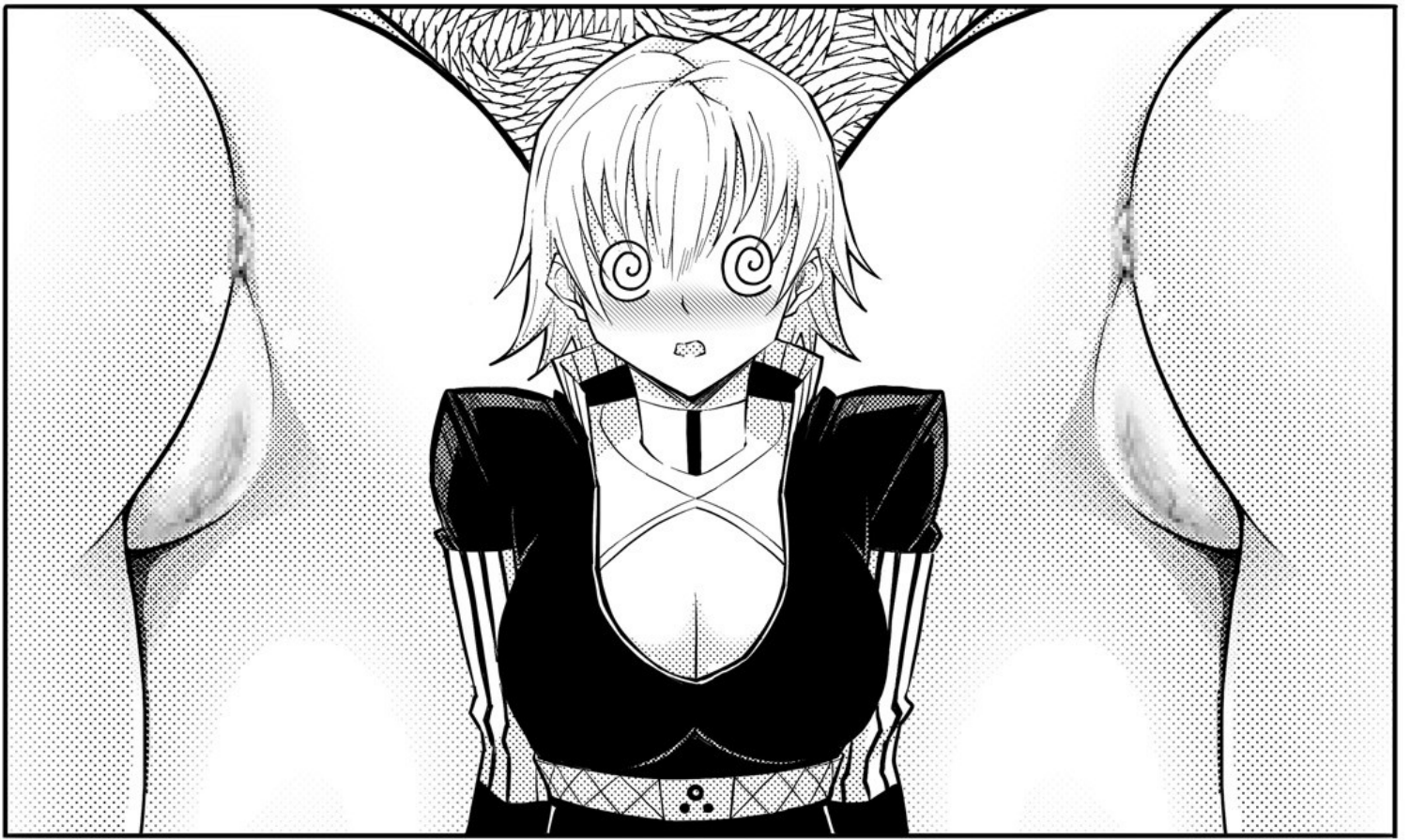


ヤバイっつてええええ!!!

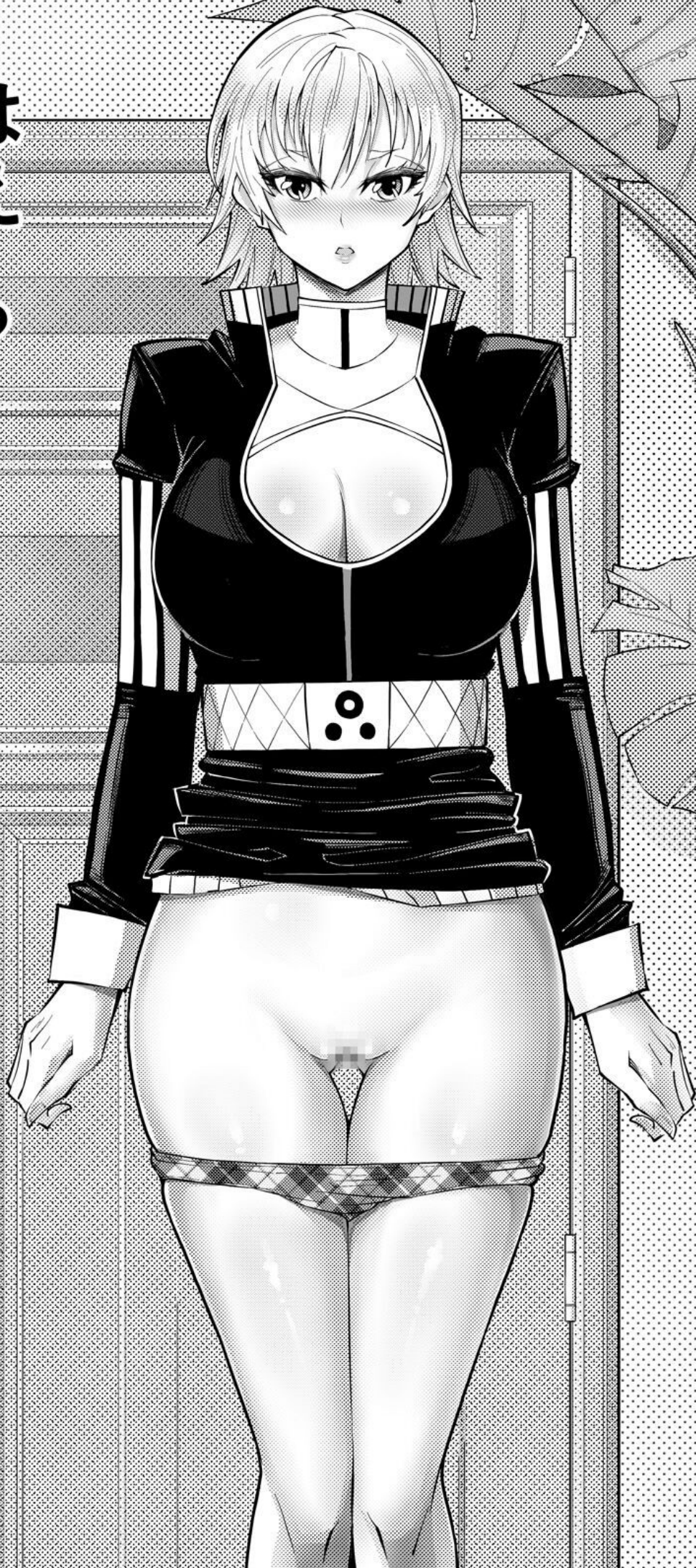


しよ、將軍
.....





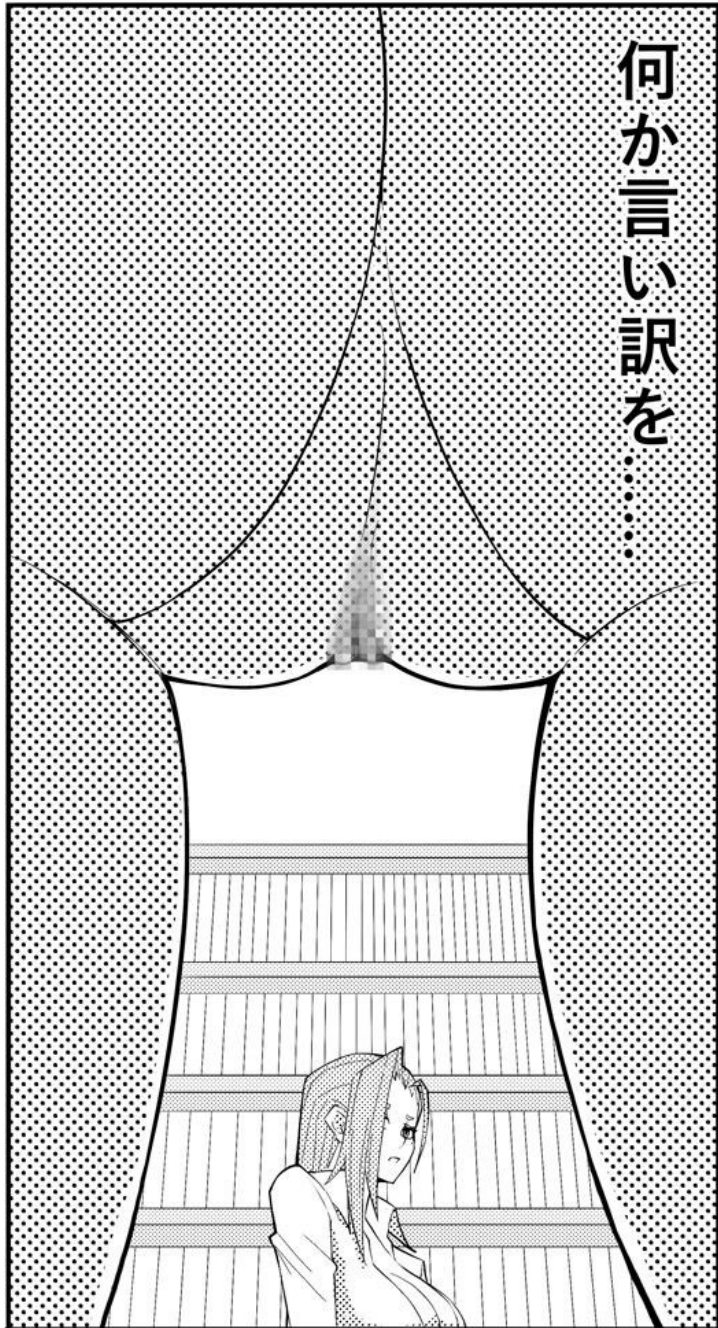
はえ...?
?





ななな、
何やってんだ
私いいい

何で…パンツを
抜いてしまった
んだ…



何か言い訳を……

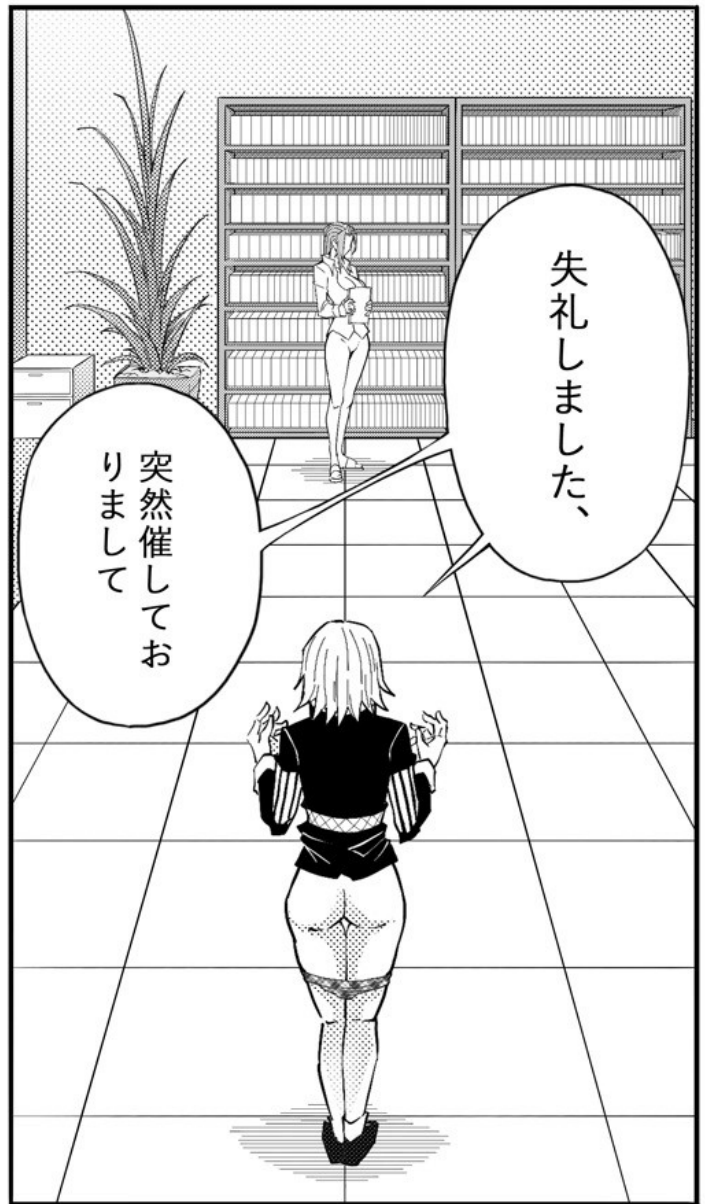


將軍殿の裸を見てムラムラ……

いやまで、
今はそれどころじゃないだろおお

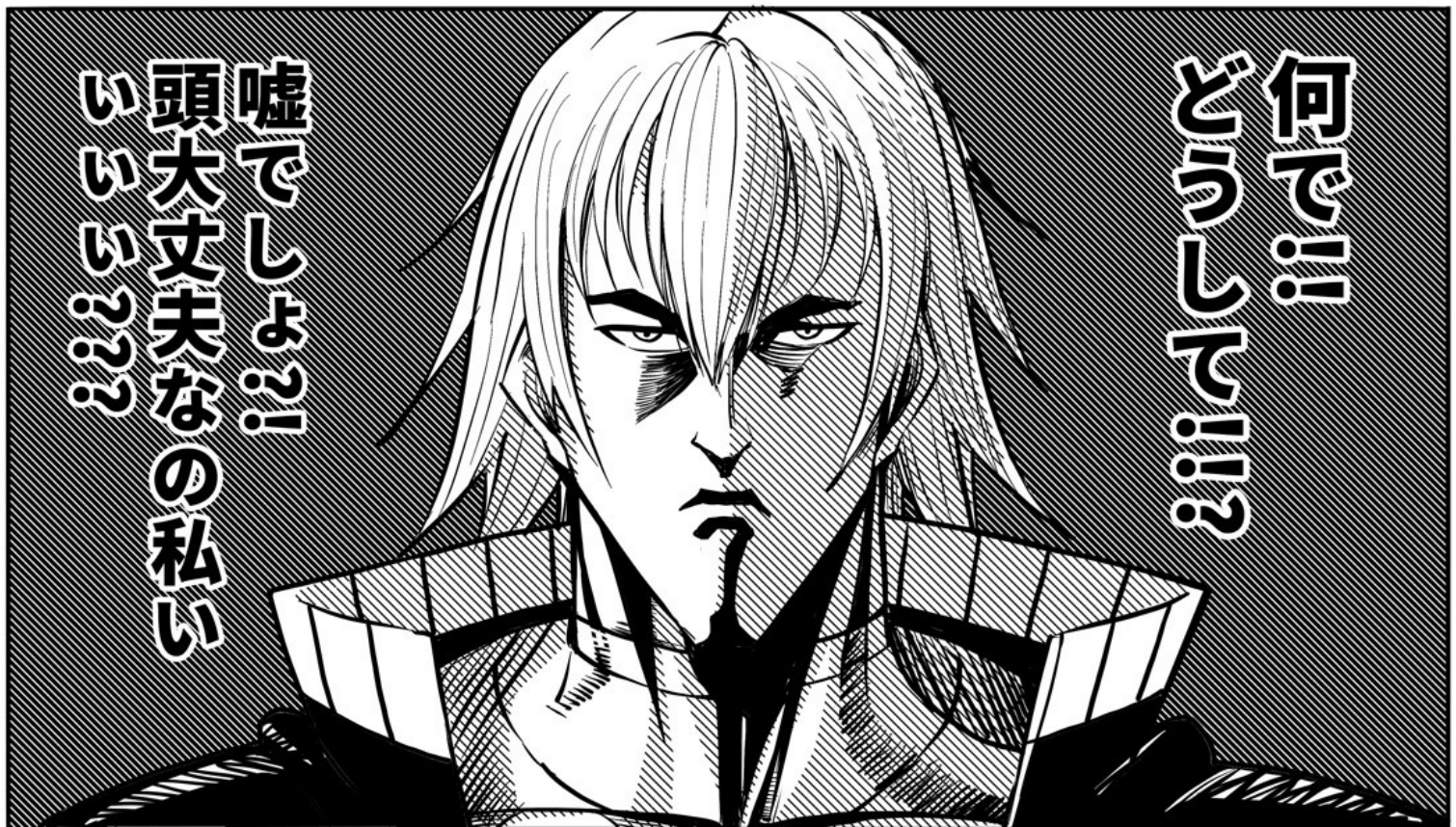


將軍殿の時間を無駄にする訳には行きませんので、ここで解決しようかと。



失礼しました、

突然催してお
りまして



何でニ
どうしてニ

嘘でしょニ
頭大丈夫なの私いいニ

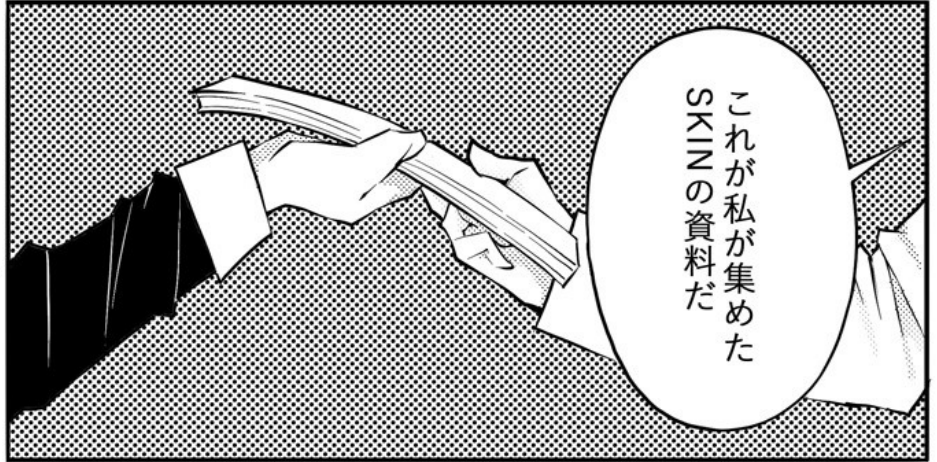
將軍のオフィスでご
本人と連れション
って……しかも
地面に……

ちよちよちよっ

言い出したの私
だけどこれは
意味不明過ぎる
でしょ……



これが私が集めた
SKINの資料だ



では早速始めよ
う、参謀長

金狐与
SKIN成员
资料汇编

(ゴールデンフォックス及び
傭兵部隊SKINメンバーに
関する調査書)



へ？
いやこれって……

もう断れない
雰囲気じゃ……



あああもうどう
にでもなれええ！



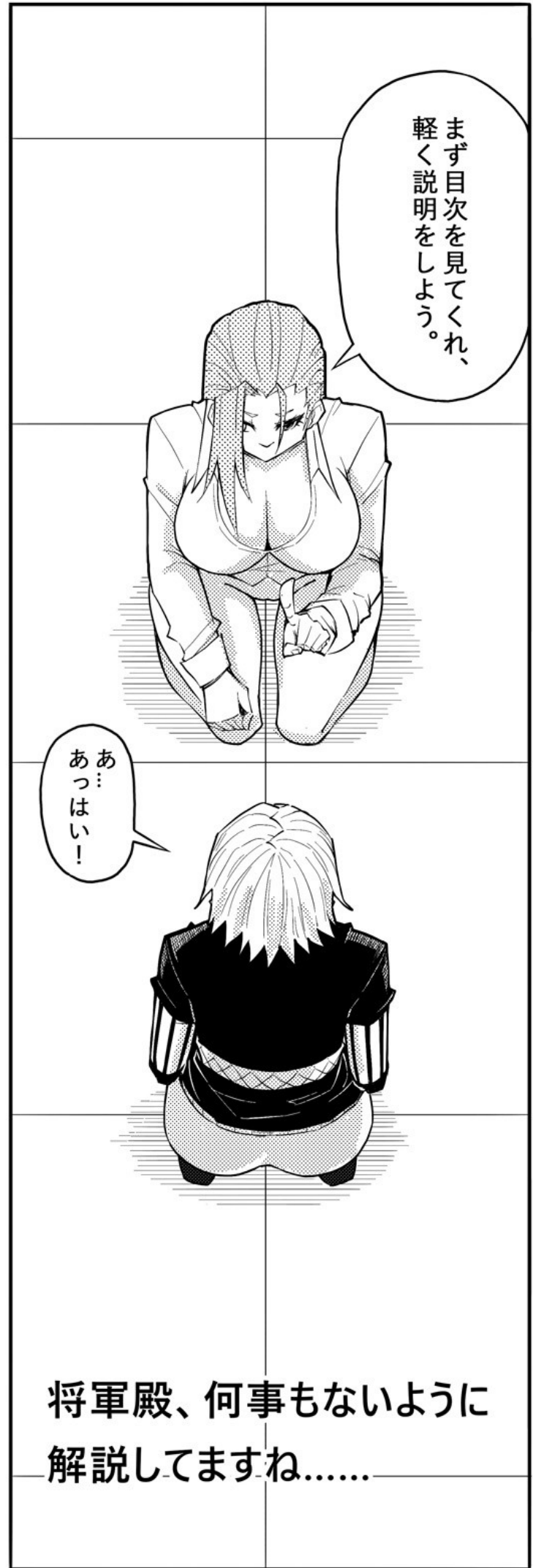


この状況で恥ずかしくないんですか……？



こんな……お互いのアソコに面を向かって……

本当にするんですか？
いくら何でもおかしいんじゃない？



まず目次を見てくれ、軽く説明をしよう。

あっ……はい！

將軍殿、何事もないように解説してますね……

しよ、
將軍殿！

うそ……
本当におしっこ
してる……

あの冷徹で完璧な將軍殿が、
一糸まとわぬ下半身をあらわ
に私が見ている前でオフィス
の床で……

將軍殿……

將軍……

ああ、將軍のアソコ……

將軍のお小水……

あわ……あわわ……

私……
わたし……



わたしもっ！

んひいいいー

出ちやう……！

おかしい……
おかしいのに……

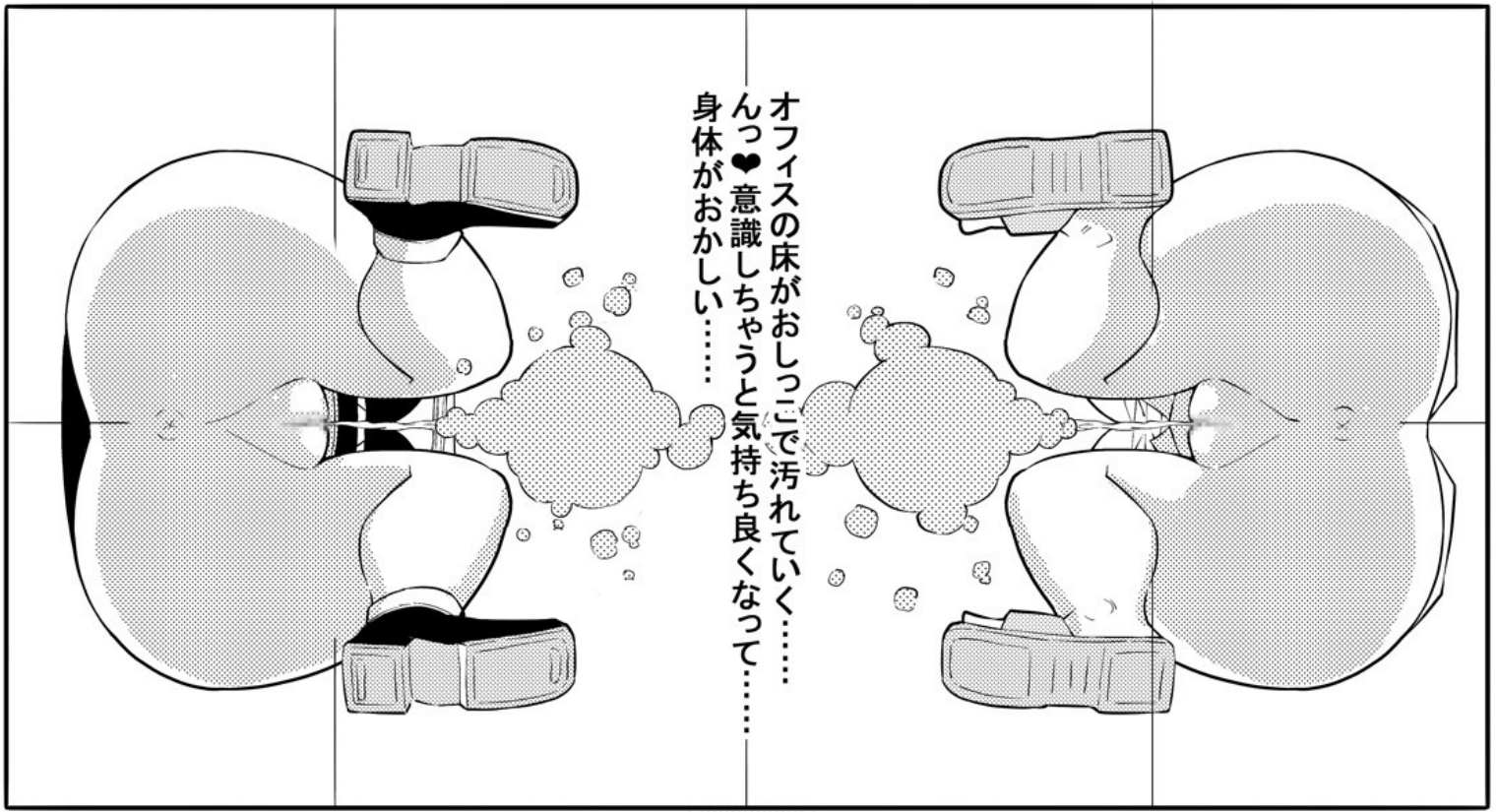
こんな堂々と、將軍の見て
いる前でオフィスの床で
おしっこするなんて……

ああ……でも……
この快感はなに？

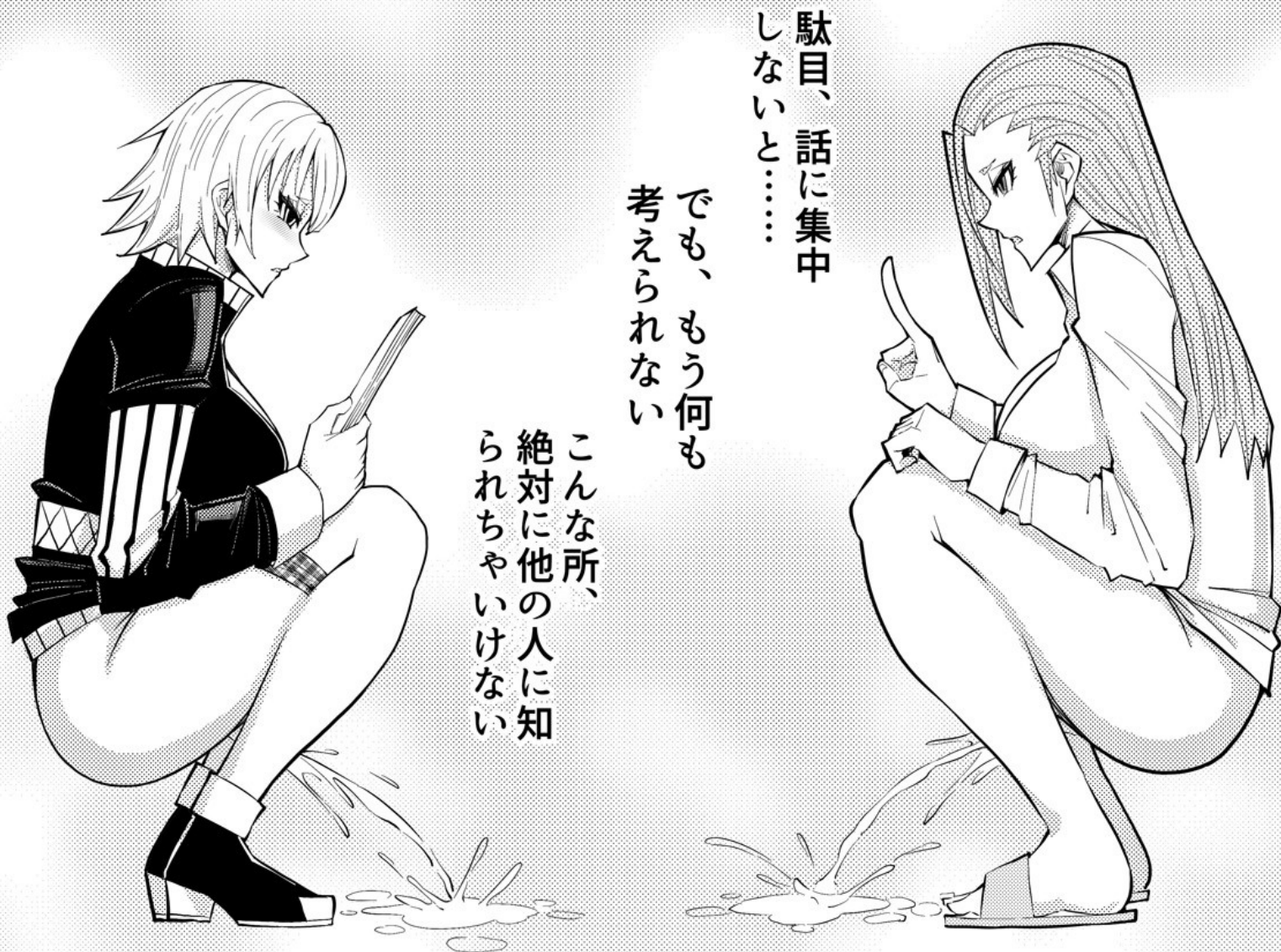
うっ……

死ぬほど恥ずか
しいのに……
何故か気持ち
いい……





オフィスの床がおしっこで汚れていく……
んっ♡意識しちゃうと気持ち良くなって……
身体がおかしい……



駄目、話に集中
しないと……

でも、もう何も
考えられない

こんな所、
絶対に他の人に知
られちゃいけない

しかし時が過ぎ、アロサウジア
王国元將軍の自伝において、
この出来事が書かれていたのだ。

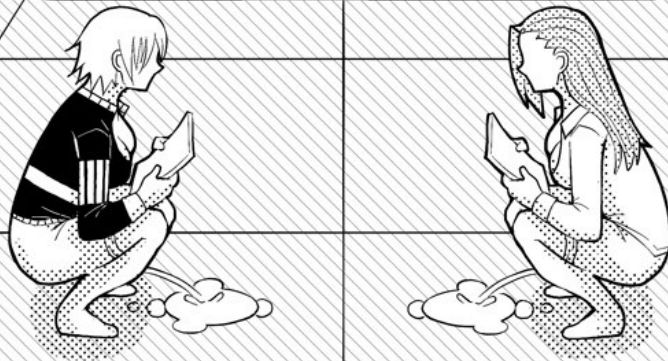
後世の人は尊敬な
意を込め、

「不恥尿議」

と呼んだ。

これは、アロサウジア王国の
將軍と參謀長が国を憂い、
生理現象に割く時間を惜しむ
まで公務に励む様子をういて、

責任感に溢れ、なすべき事に打ち
込む人を引喩する言葉である。

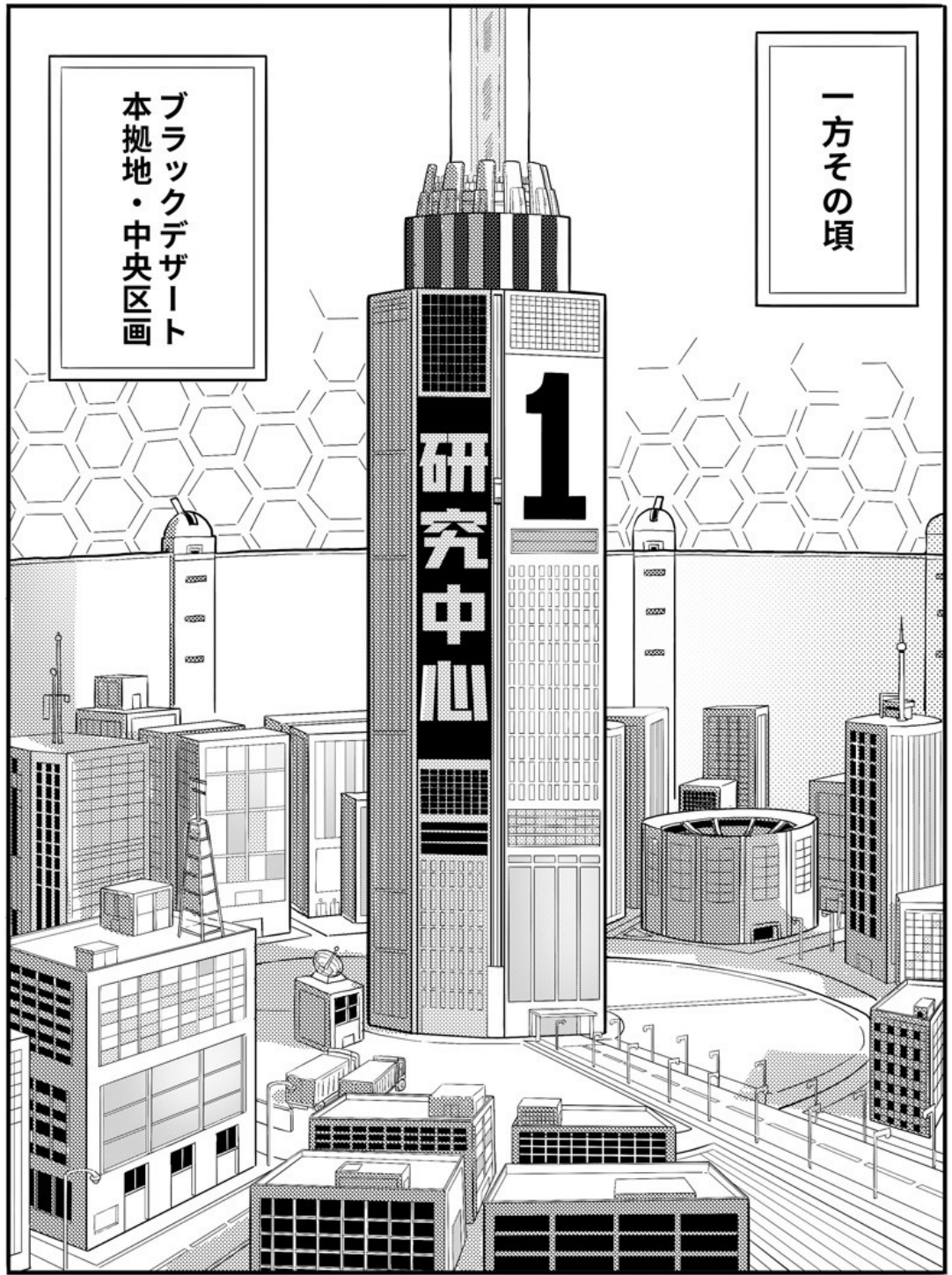


こらあ！
後世に伝わ
るなああ！



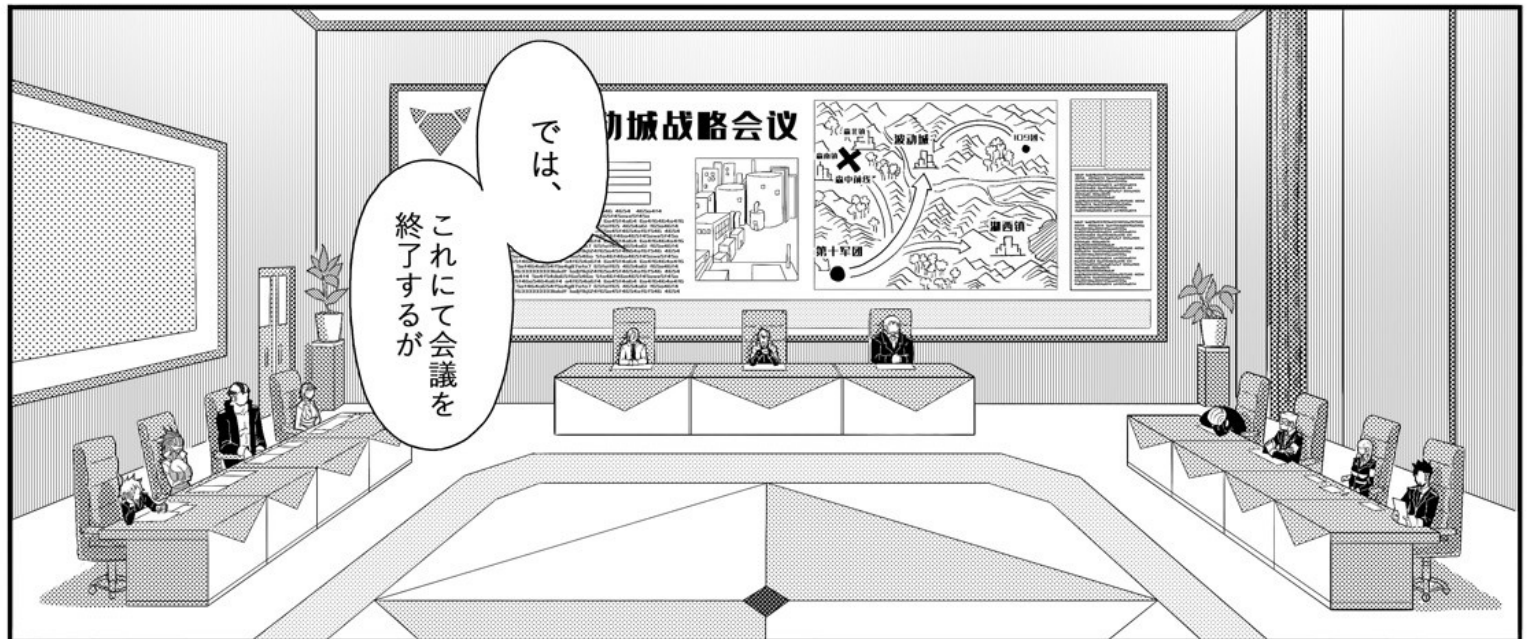


はっ、
軍団長。
只今会議室の
前で待機させ
ております。



ブラックデザート
本拠地・中央区画

一方その頃

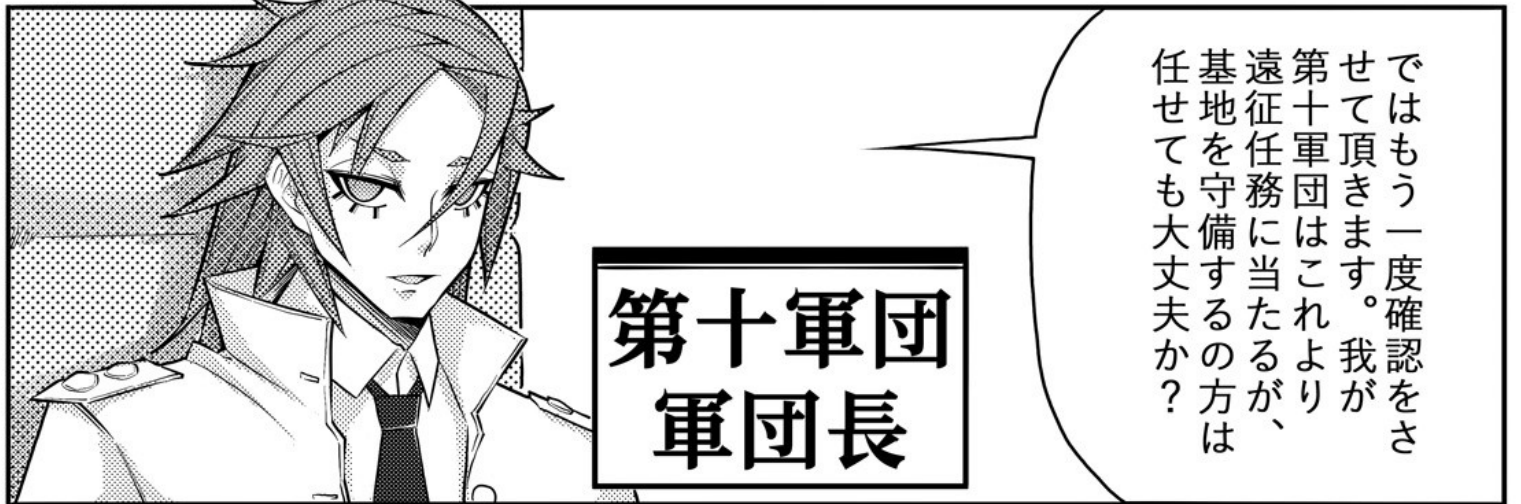


攻城战略会议
では、
これにて会議を
終了するが



中央区画
総帥

諸君、異議は無い
かね？もし無けれ
ばこれにて。



第十軍団
軍団長

ではもう一度確認をさ
せて頂きます。我が
第十軍団はこれより
遠征任務に当たるが、
基地を守備するの方は
任せても大丈夫か？



第八軍団
軍団長

安心すると良い。
第八軍団の機動部隊
が基地の安全を保障
する。
それとも、私達は
貴方が居ない何も
出来ないとしても？



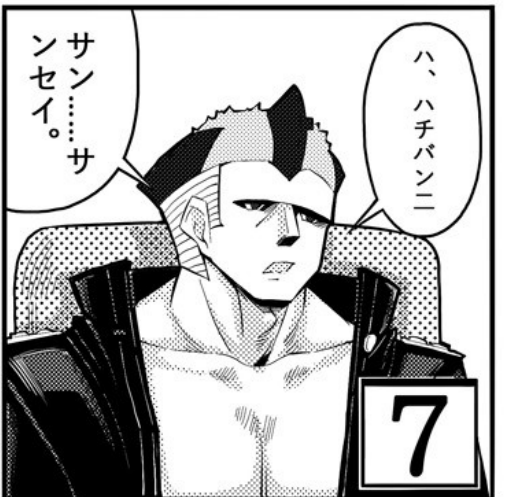
4

言葉には慎ん
でもらおう。



9

そうだ、
自惚れるなよ、
第十軍団の。



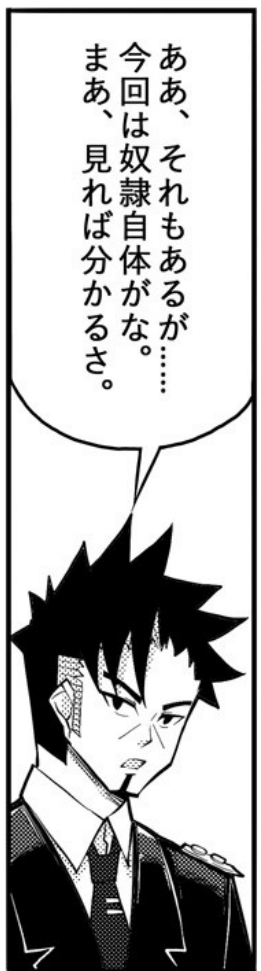
7

ハ、ハチバンニ
サン……サ
ンセイ。

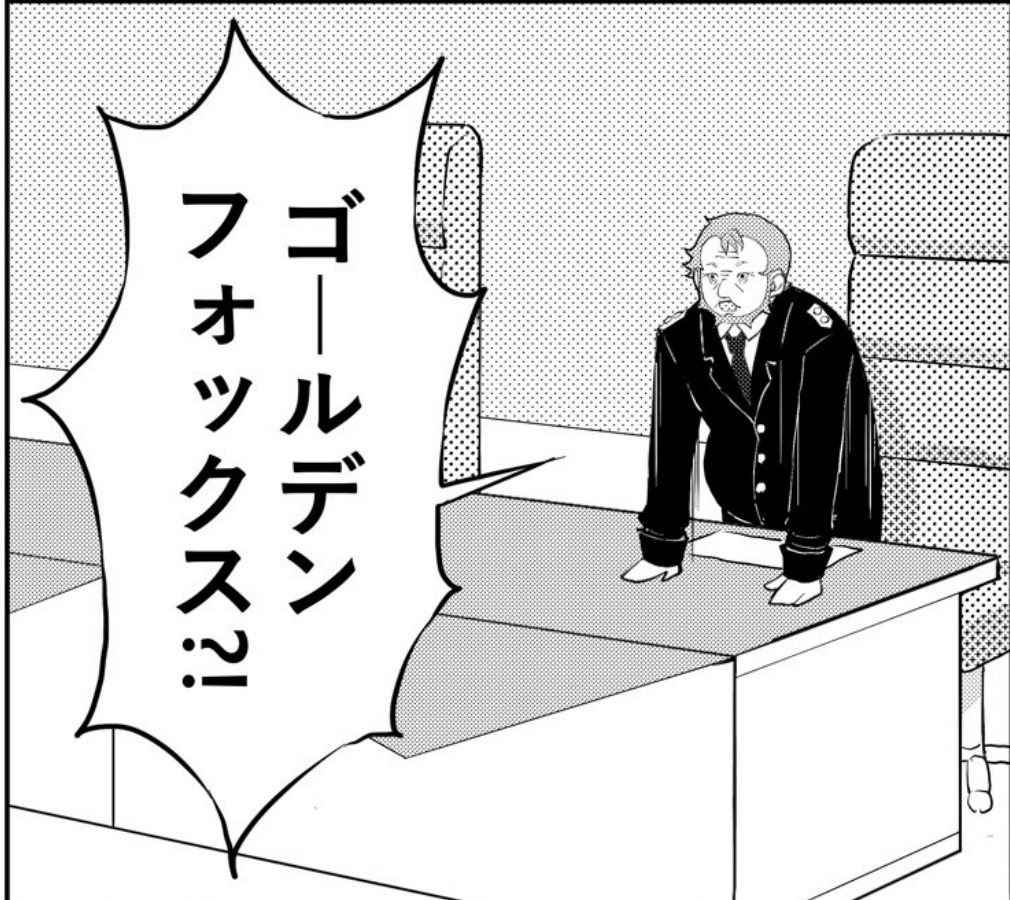
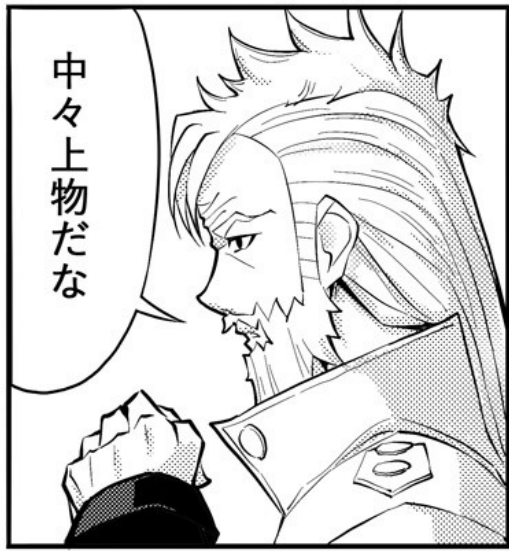


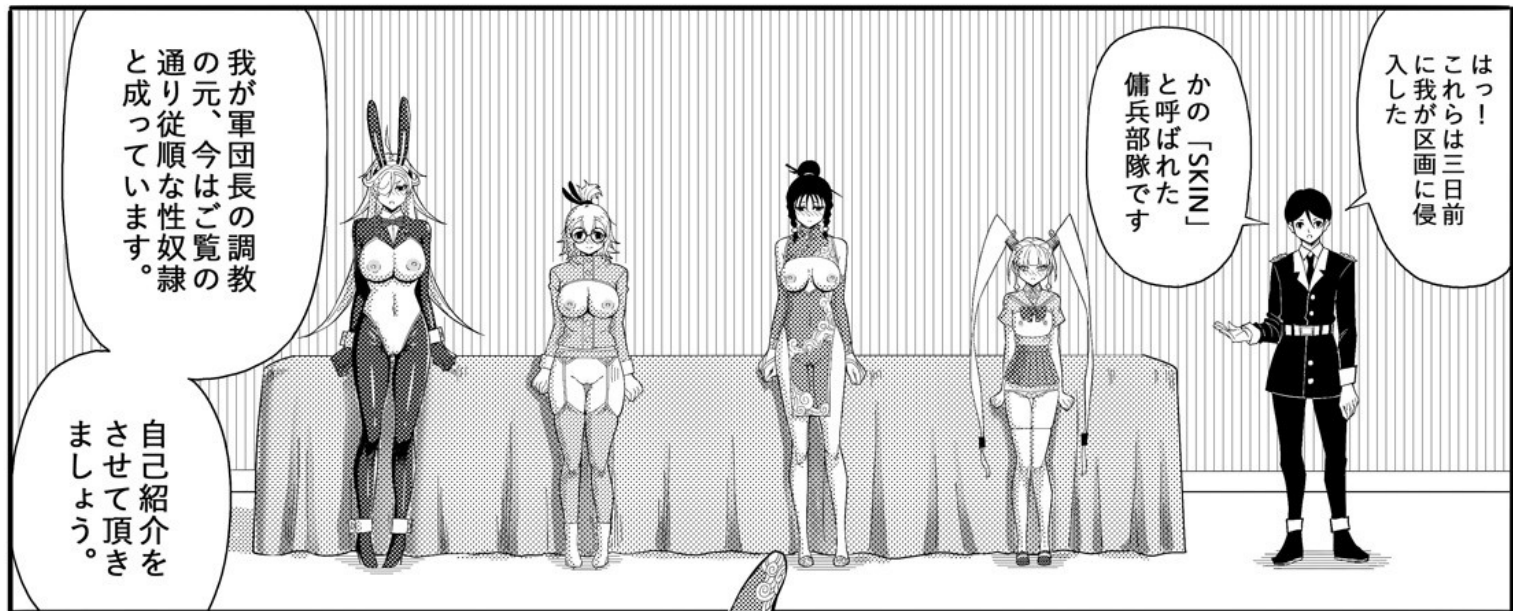
第十一軍団 副総帥

もう争いはやめるんだ！
既に決まった事だし何度も確認する必要は無い。
それと、
第五軍団長が会議後に
見せたい物は何だ？









はっ！
これらは三日前
に我が区画に侵
入した

かの「SKIN」
と呼ばれた
傭兵部隊です

我が軍団長の調教
の元、今はご覧の
通り従順な性奴隷
と成っています。

自己紹介を
させて頂き
ましょう。



ご主人様あ、
初めまして、

新人奴隷の、
アイビー
です！

むちむちふわふわな
お肉で、気持ち良
くさせて頂きます♥



ご主人……

新人奴隷、
ニン。

武芸による……
しなやかな肢体
が……売ります。



ご主人様達ごきげん
よう、新人奴隷の
クリスターです。

超能力者で
すので……

どんなハードなプレイ
でも受け止める華奢で
丈夫な体が売りでござ
います。



ふふ、第五軍団
も捨てたもんじ
やないね。



うへー、こんな
レベルの敵でも
手懐けられるのかよ



クソゴミ
共が……



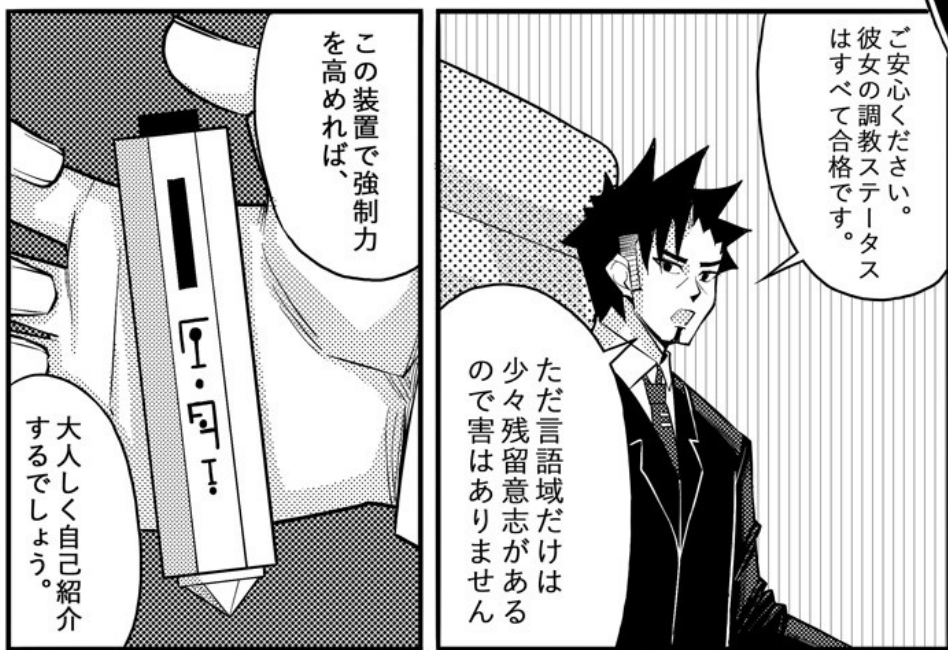
どういう事
だこれは！

こ……



第五軍団長よ、
未合格な奴隷は
敵同然、
本当なら重大な
規則違反だが？

こんな事してタダで
済むと思うなよ。



この装置で強制力
を高めれば、

ご安心ください。
彼女の調教ステータス
はすべて合格です。

ただ言語域だけは
少々残留意志がある
ので害はありません

大人しく自己紹介
するでしょう。



おい、
ゴールデン
フォックスよ！
こっちこい！

グハハハ
ハハハ

構わんぞ！
このままで
良い！

五年間だ！

まさかこんな
容易く部下に
敗れたとはな！

舐めた態度
が仇になっ
たな、ああ？

貴様に復讐し
てやろうと思
ってたぞ！

この五年間
わしはずっと

わしの事は覚え
ているだろ？
ゴールデン
フォックスよ。

五年前わしに言った
あの言葉もな？

フン！

何だ貴様。

貴様らの様な三下
なんざ、覚えてる
訳ないだろ？



性奴隷
シックス、
命令だ



けっ、流石だな。
こんなさまになっ
てもその態度とは

しかし、
くくく…

乳首を両
手で弄り
まわし、
五年前に
わしに言
った事を
もう一遍
言ってみ
ろ！

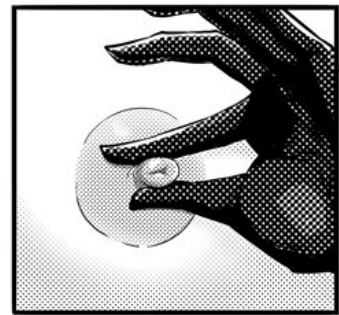
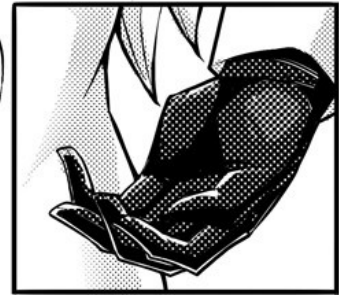


き、

貴様ふざけ
てんのか？

さっきも言った
はずだ、覚えて
ないってな。

貴様なぞ言葉と
ころか、存在自体
覚える価値もな
いクズだからな。



素晴らしい、
素晴らしいぞ！



……

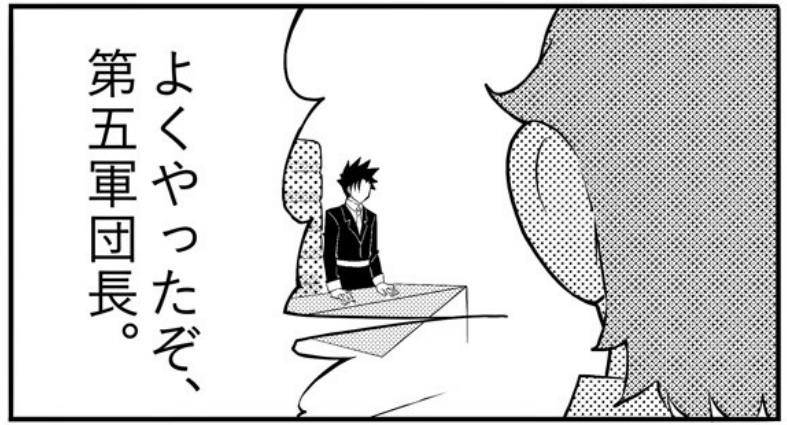


フハハハハ！
良いぞ！良い様だ！

股をおっ広げて
乳首弄りながら
偉そうに言っても
無様でしかないわ！



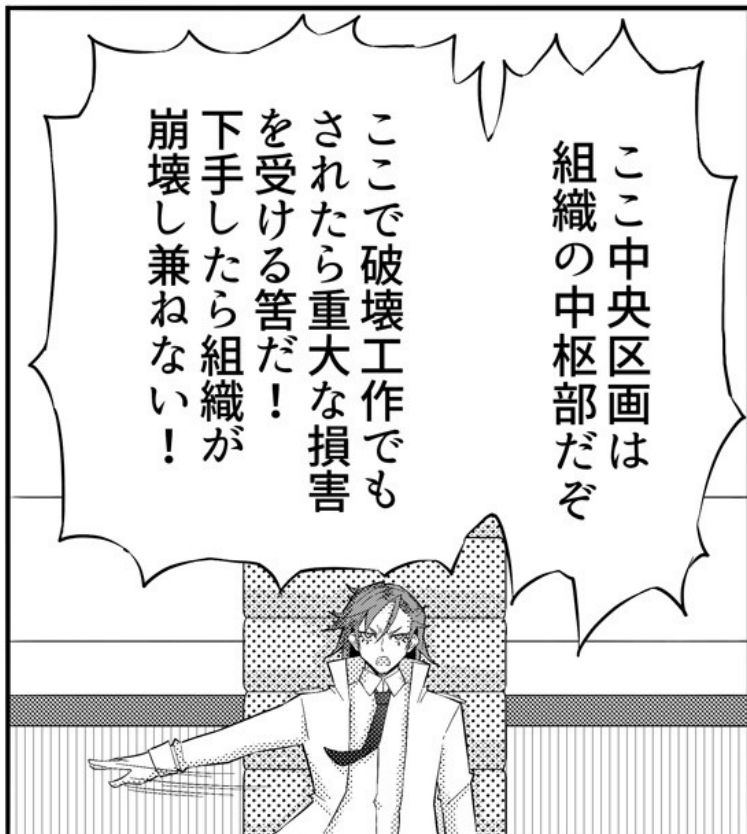
フン、これで俺様の
実力を思い知っ
たか。



よくやったぞ、
第五軍団長。



気でも狂っ
たのか!!



ここ中央区画は
組織の中枢部だぞ
ここで破壊工作でも
されたら重大な損害
を受ける筈だ!
下手したら組織が
崩壊し兼ねない!



まさか敵のエージェントを
この中央区に置くとしても
言うのか!

おいおい、そう興奮すんなよ。

オレのやり方が気に食わないのは知ってるが、

今更性奴隷制度に反対して来ても困るな。

以前ならな。貴様の部下やそこから辺の売女、捕獲した女賊など、気に食わんが害にはならない。

しかし、やつらは政府軍が雇った傭兵部隊だぞ！

やつらの目標もこの中央区画にあるに違いない。

第十軍団長よ、その言い分は理解している。

だが第五軍団長の研究や、その報告書と成果はみな見て来た

調教ステータスが合格であれば逆らう事はまず無い。君の心配する事は起こるまい

こんな研究など何になると言うのだ？

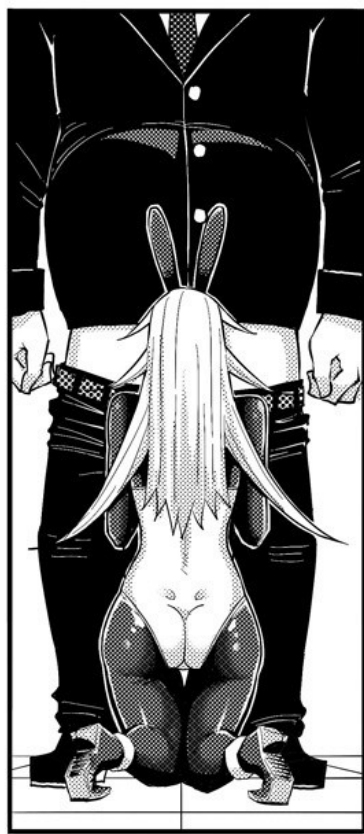
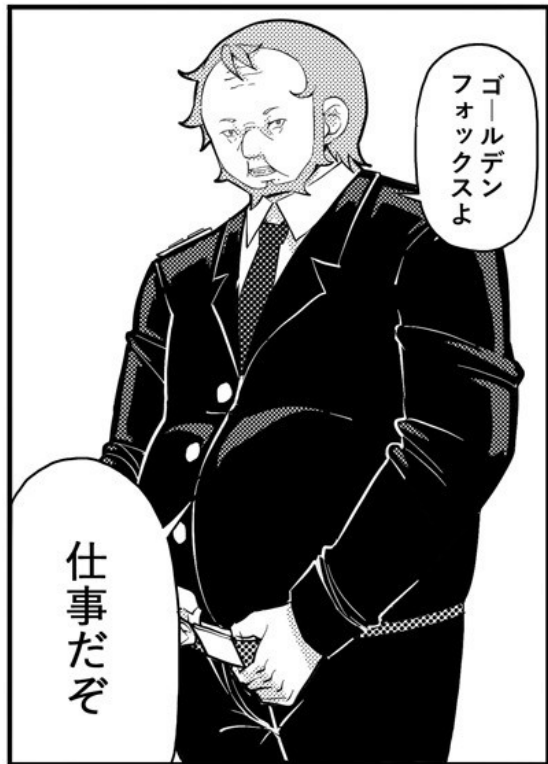
その調教システムとやらが解析され、ステータスを偽装されたとしたら？

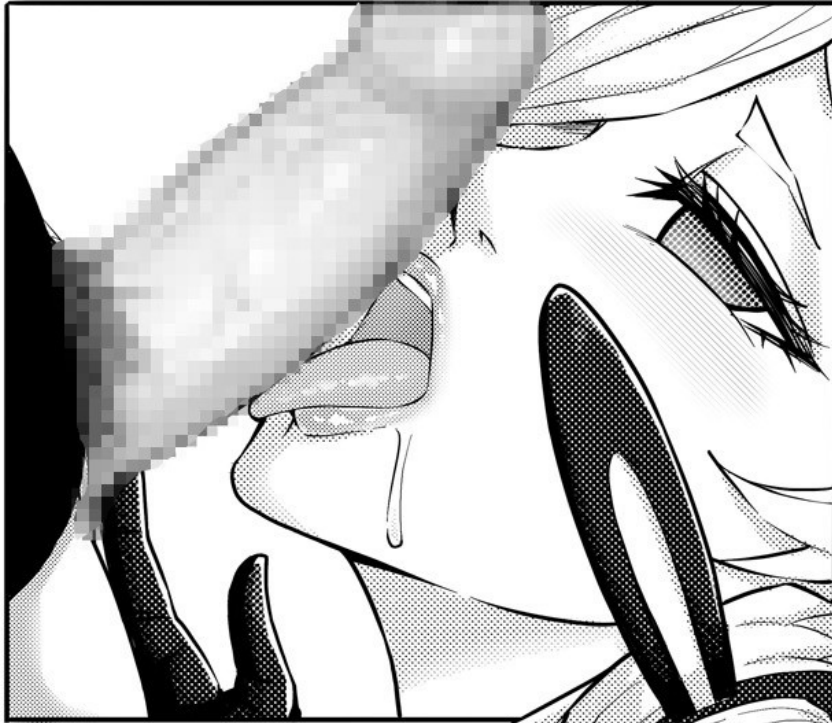
そう憶測で難癖をつけては行かん。

第十軍団長は研究資料を見たら事すら無いはずだが？

報告書では、調教改造された個体は強力な洗脳により、「主人」と登録した者には絶対服従と証明されているんだよ。

この様にな……







おほ——こりや良いぞ！

あのゴールデンフォックスが、
わしのチンコを舐め回してるぞ！



ご覧ください。

ただ男根を啜え
ているだけでも



彼女の体が反射的
にオーガズムを
迎えている。

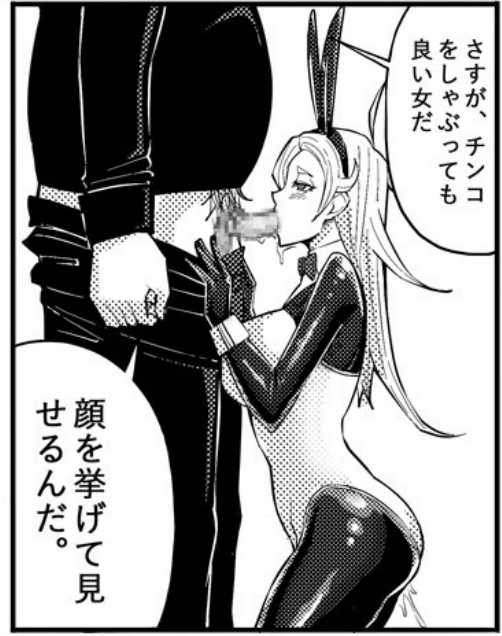




*ひうあ！

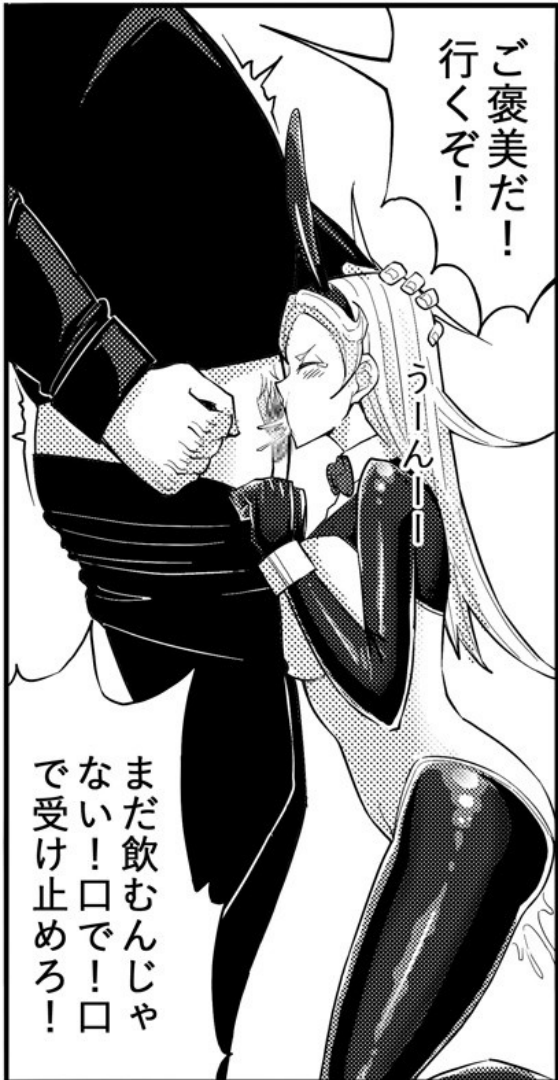
*んおお

*いや！*見るな！



さすが、チンコをしゃぶっても良い女だ

顔を挙げて見せるんだ。



ご褒美だ！行くぞ！

うん

まだ飲むんじゃない！口で！口で受け止める！



ゴールデン フォツ！

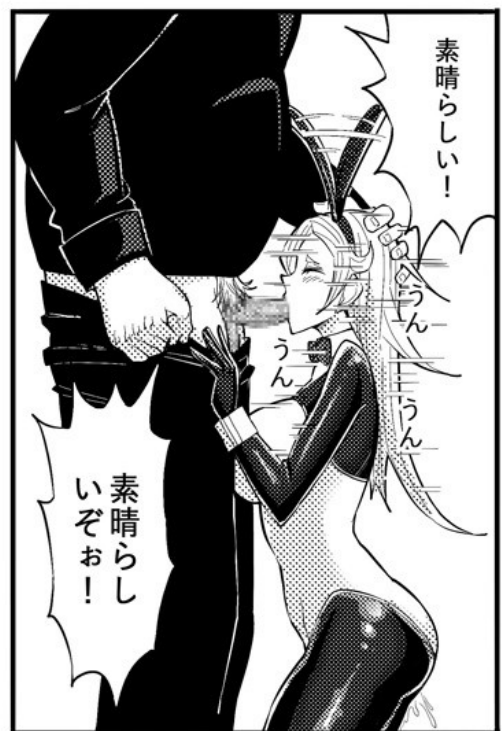
クス！

ふん！

ふん...おおおお...

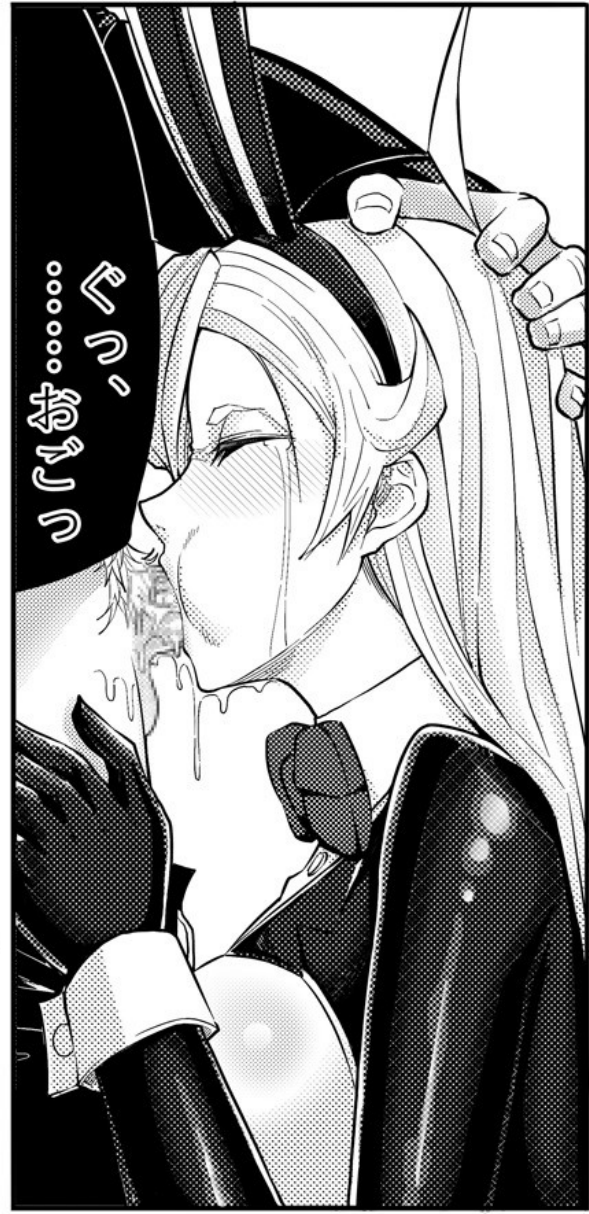


おお、これは...



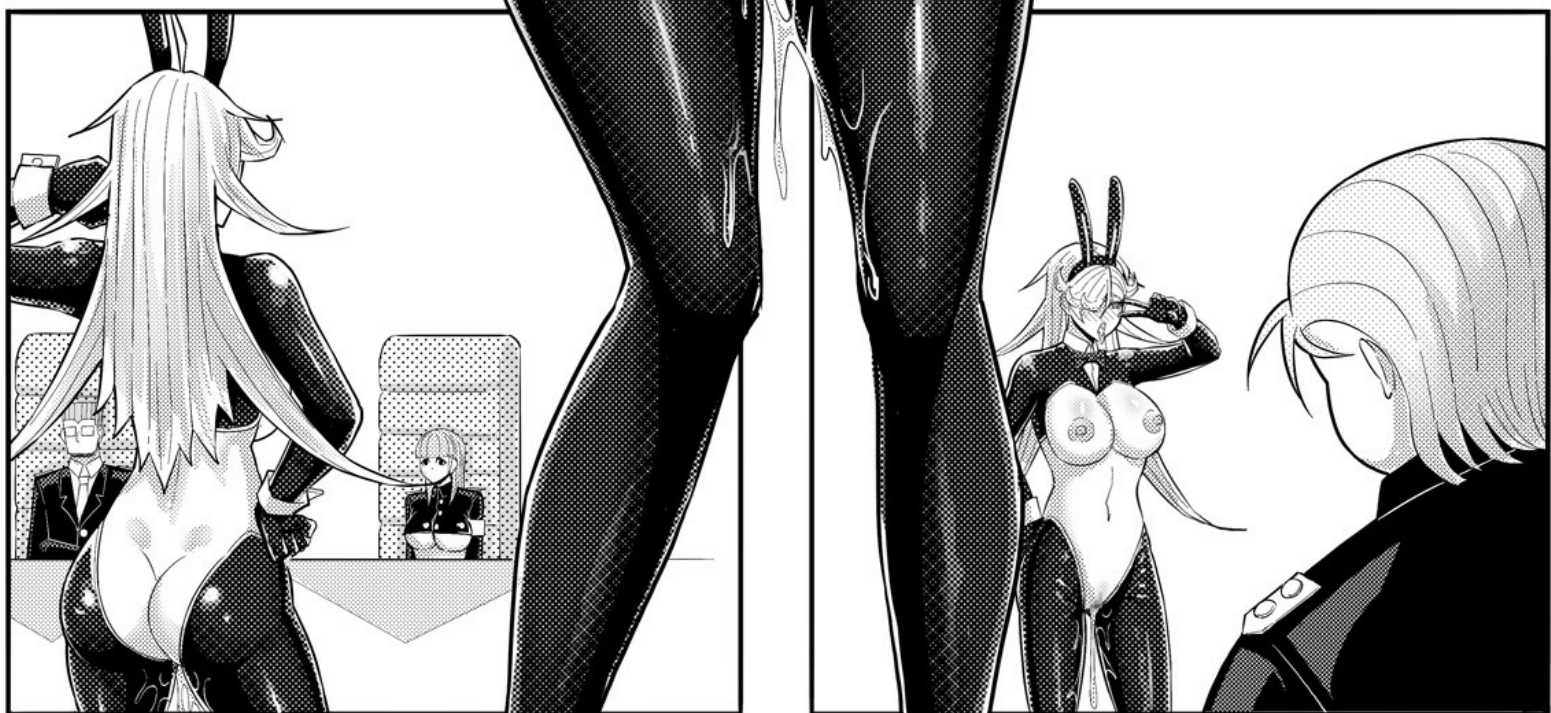
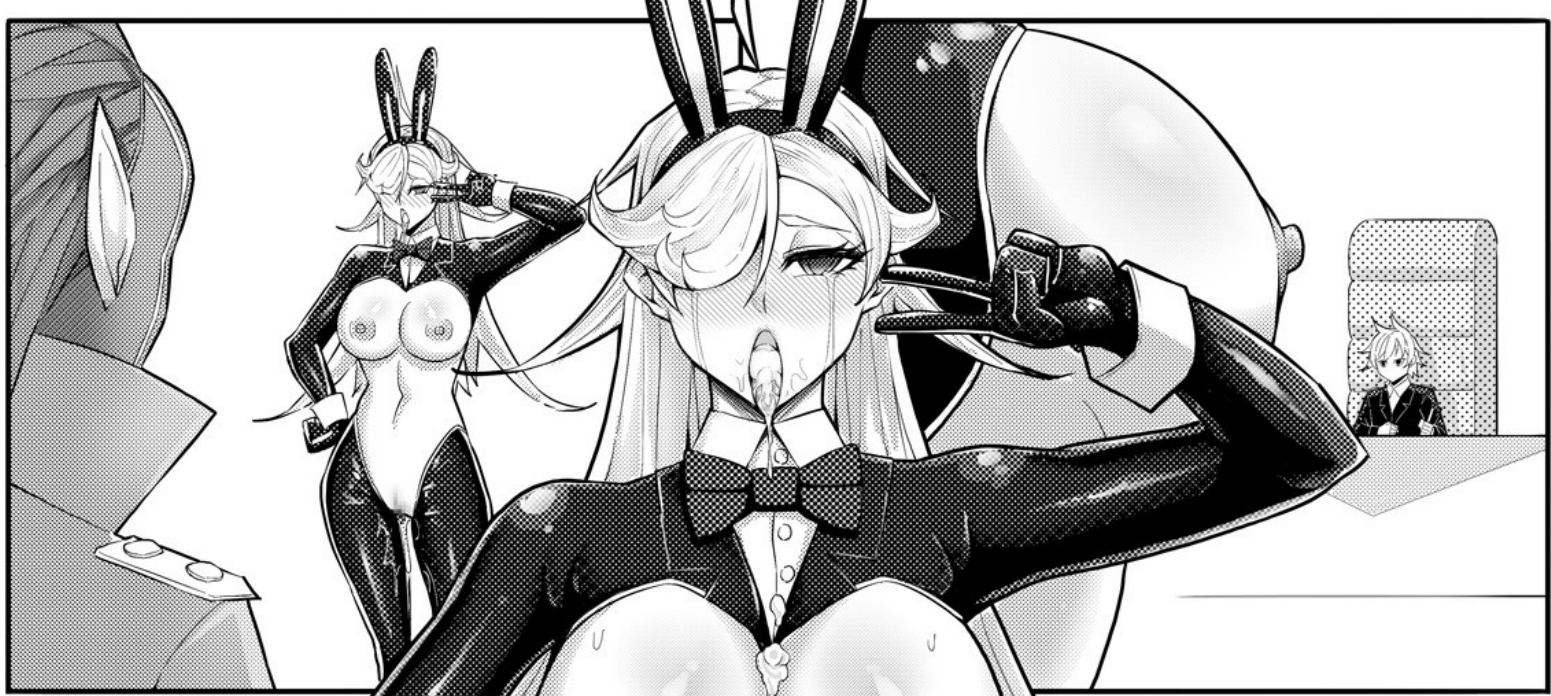
素晴らしい！

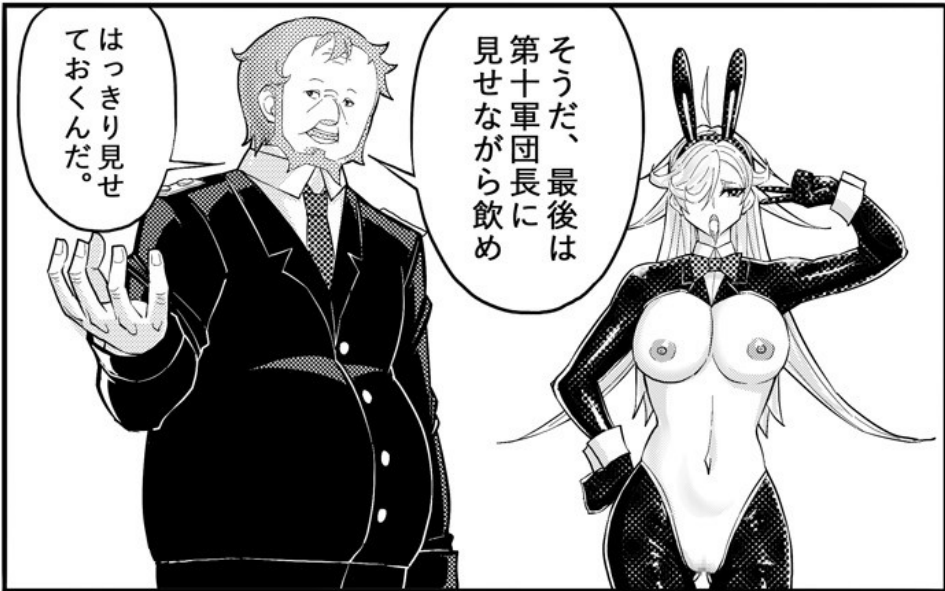
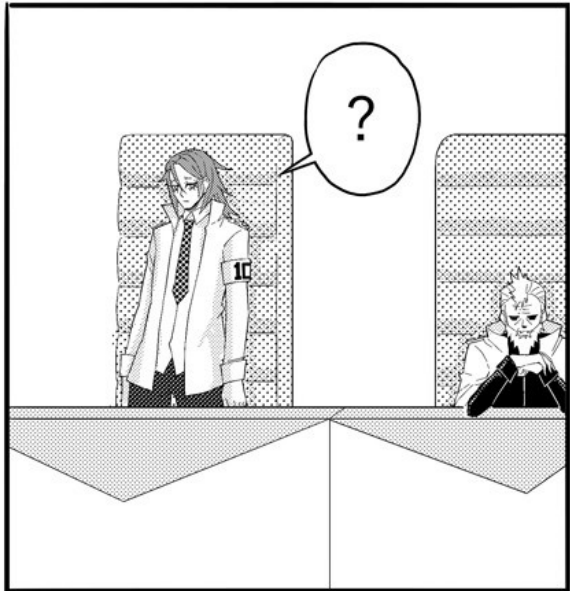
素晴らしいいぞお！



良いぞ、
そのままだ。

軍団長達にその口
の中の褒美を見せ
つけて見ろ。







そうだ、
性奴隷よ。

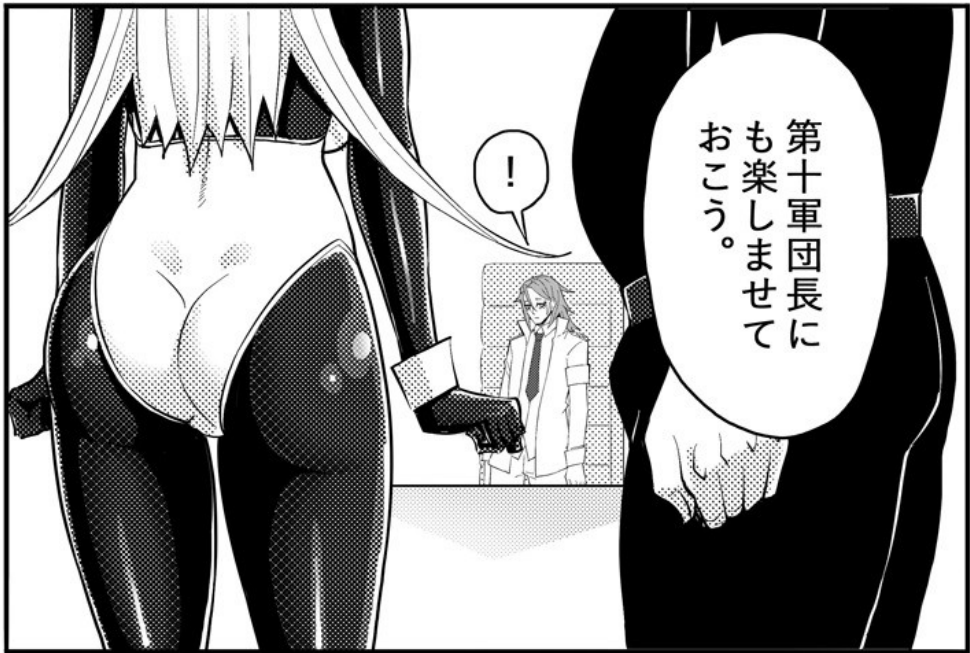


ほう？ 見てるだけ
では駄目とな？



来るな！

汚らわ
しい。



第十軍団長に
も楽しませて
おこう。

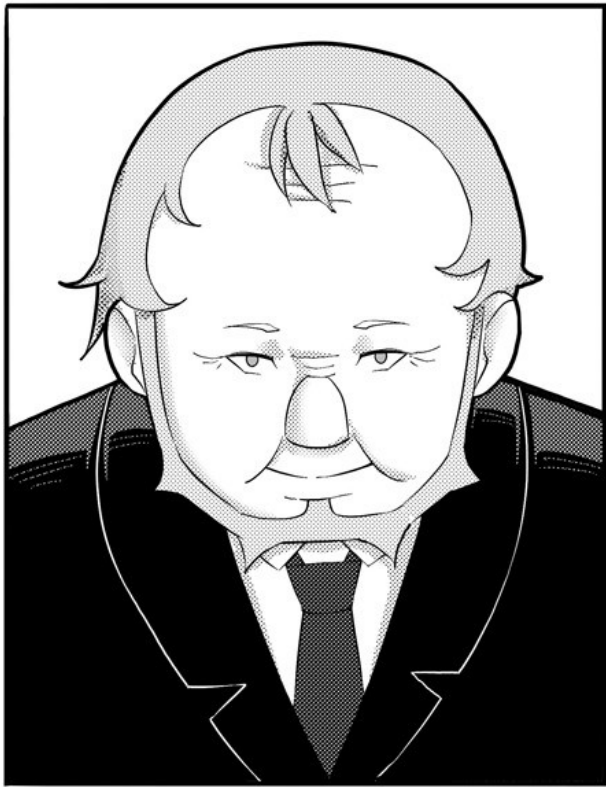
！



良いだろう。

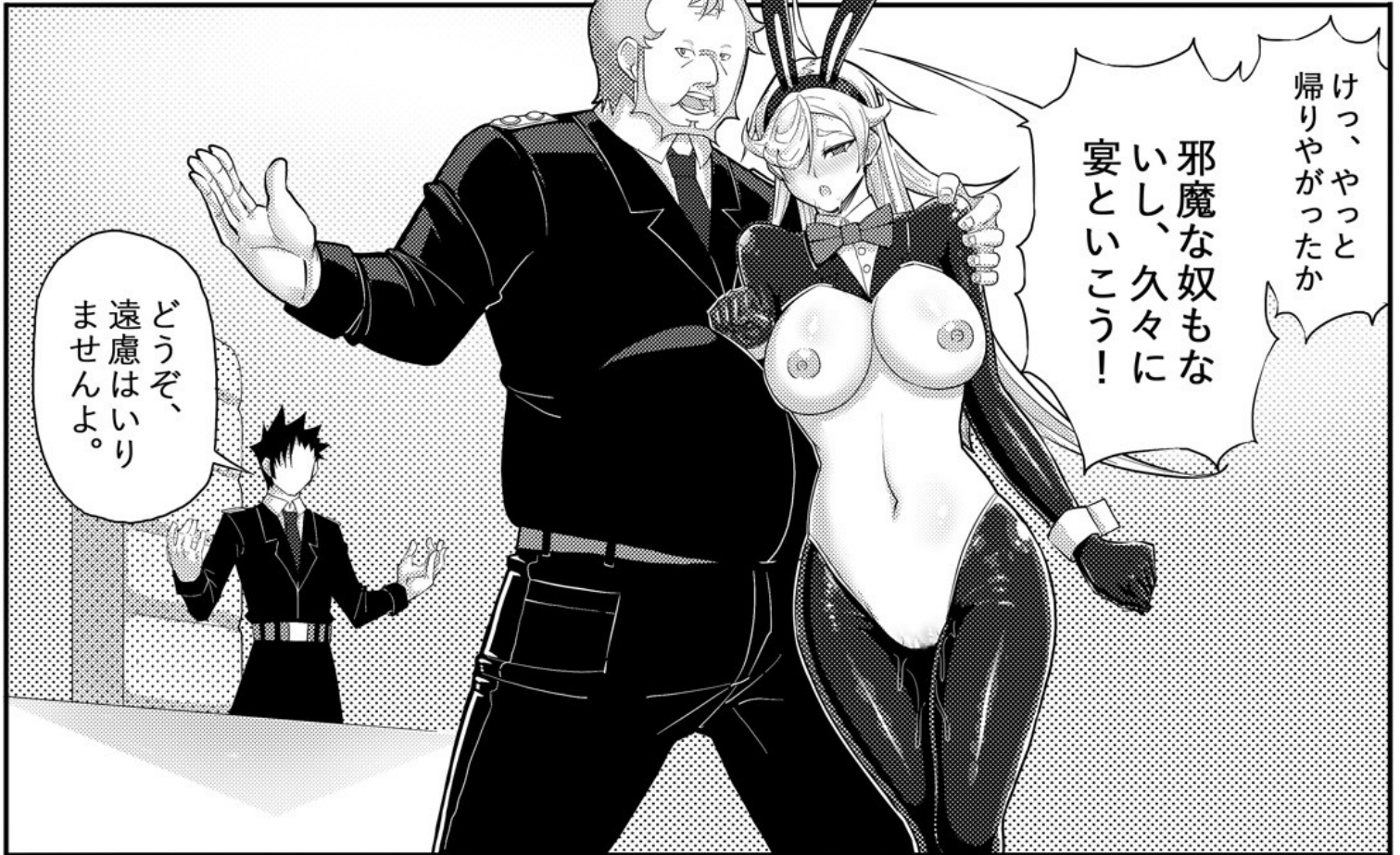
もうここでの用
は済んだ。
帰らせて貰う。





言うべき事は言った、
聞く耳持たないなら
仕方ない。

明日我が軍団と共に
任務に当たる、その間
に起こる問題は私の知
った事ではない！

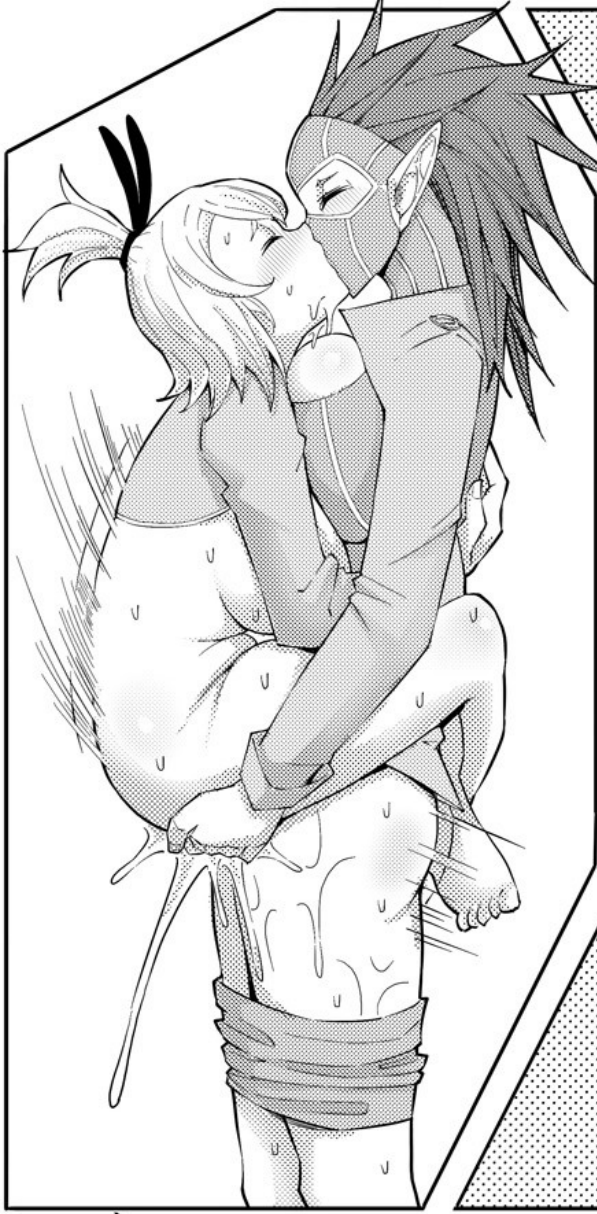


けっ、やっと
帰りやがったか
邪魔な奴もな
いし、久々に
宴といこう！

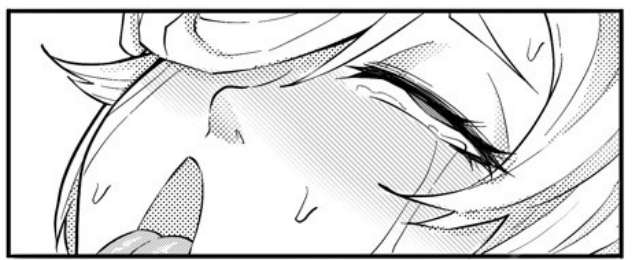
どうぞ、
遠慮はいり
ませんよ。











ああ、正確には「男」じゃない、「愚かな男」だな。

——ゴールデンフォックス・シックス